

播磨町子ども・若者に関する
アンケート調査・関係団体ヒアリング調査
結果報告書
【概要版】

令和6年8月
播磨町

目次

I	アンケート調査	1
1	調査概要.....	1
2	調査結果の総括.....	2
3	保護者アンケート調査結果.....	9
4	こども・若者アンケート調査結果.....	25
5	自由回答.....	55
II	関係団体ヒアリング調査	59
1	調査概要.....	59
2	調査結果.....	60

I アンケート調査

1 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、教育や保育、町の子育て支援事業、こども・若者の生活や意識に関する状況等についてお伺いし、令和7年度より開始される「播磨町こども計画」の策定の基礎資料とするとともに、今後の町としての支援・施策に役立てることを目的として行いました。

(2) 調査概要

項目	小学生	中学生	こども・若者
調査対象者	播磨町在住の 小学4年生～6年生	播磨町在住の 中学1年生～3年生	播磨町に住民票がある 高校1年生相当年齢 ～29歳の方
調査内容	こどもの生活実態の把握		こども・若者の生活や 結婚・子育てに対する意識 の把握
調査期間	令和6年5月27日(月)～6月14日(金)		
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式及びWEB回答方式		

項目	就学前保護者	小学生保護者	中学生保護者
調査対象者	播磨町在住の就学前 児童の保護者	播磨町在住の小学生の 保護者	播磨町在住の中学生の 保護者
調査内容	教育・保育事業や子育て支援事業の利用状況・ニーズ把握・ 子育て家庭の生活実態の把握		
調査期間	令和6年5月27日(月)～6月14日(金)		
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式及びWEB回答方式		

(3) 回収結果

	小学生	中学生	こども・若者	就学前保護者	小学生保護者	中学生保護者
配布数	1,057件	1,063件	996件	1,733件	2,111件	1,063件
回収数	926件	950件	165件	1,003件	1,304件	608件
うち郵送	1件	8件	31件	512件	599件	219件
うちWEB	925件	942件	134件	491件	705件	389件
回収率	87.6%	89.4%	16.6%	57.9%	61.8%	57.2%
うち郵送	0.1%	0.8%	3.1%	29.6%	28.4%	20.6%
うちWEB	87.5%	88.6%	13.5%	28.3%	33.4%	36.6%

2 調査結果の総括

(1) 子育て環境について

① 保護者の就労状況

- 女性の就業率は増加傾向にあり、アンケート調査においてもフルタイムまたはパートタイムで働く母親は約7割となっています。共働き世帯の増加から、保育サービスのニーズは今後も高まることが予想されますが、事業やサービスの維持・充実のためには、保育士等の人材確保が課題となっています。
- 現在働いていない母親の今後の就労意向について、一番下のこどもが成長したら働きたい人の割合が約5割と最も高く、そのうち、こどもが就園する時期の3歳と、就学した後の7歳になったら働きたいと考えている母親の割合が高くなっています。また、パート・アルバイト等で就労している母親のうち、38.5%がフルタイムへの転換希望があり、今後もフルタイムで働く母親は増加することが予想されます。
- 育児休業の取得率は父母ともに増加しており、仕事と子育ての両立支援制度は整いつつある一方、父親では「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が3割以上で前回調査よりも増加しており、依然として育児休業を取りにくい状況がうかがえます。こどもの急病等への対応や休暇の取りやすさ等、子育てを両立できる職場環境づくりや柔軟な働き方の導入について企業への啓発が重要となります。
- 母親の育児休業から職場復帰した人のうち、年度初めの入所に合わせて復帰した割合が約7割となっています。希望の時期よりも遅く職場復帰した人の理由として、「希望する認定こども園等に入れなかったため」が約6割と高くなっていることから、保育の受け入れ体制の確保が重要です。

② 教育・保育環境や保育サービス

- 子育てに大きく影響すると思われる環境について、「家庭」が9割以上となっていますが、「認定こども園・保育所」が6割以上と、認定こども園や保育所が子育てや教育の役割を担うことへの期待がうかがえます。
- 教育・保育事業を利用している人の割合が増加しており、約8割となっています。年齢別にみると、0歳児では約3割、1・2歳では約7割と低年齢のこどもの保育ニーズが高まっている状況があることから、提供体制の確保が必要です。
- 「こども誰でも通園制度」の利用意向について、「曜日や時間を固定せず、自由に利用したい」が3割以上となっています。利用したい時間帯については、開始時間は9時台、終了時間は16時台が最も高くなっています。月当たりの希望利用時間は、5時間～10時間未満が約2割と最も高くなっています。
- 土曜日・日曜日・長期休業中の認定こども園・保育所等の利用について、土曜日にほぼ毎週利用したい人は約1割、月に1～2回利用したい人は約2割となっています。日曜日・祝日は利用を希望しない割合が約8割となっています。
- 子育てに関する施設等について、子育て支援センターを利用したことがある人は6割以上となっており、月1～3回の利用が多くなっています。播磨町子育てガイドブックや子育てアプリの認知度は5割以上となっているものの、利用したことがある人は3割未満と低くなっていることから、活用に向けた周知・啓発と活用しやすい工夫が必要です。

- こどもの病気やケガにより通常の事業が利用できなかったことがあった割合は5割以上で、そのうち、病児のための保育施設等を利用したいと思った割合は約4割となっています。その際、母親が休暇を取った割合は約7割で、年次休暇を10日以上とった割合が約3割と高くなっています。父親が休暇を取った割合は約4割となっており、前回調査から増加しています。一方で親族・知人に看てもらった割合は減少しています。
- 保育サービスの利用意向について、一時預かり保育は36.1%、町内で実施している託児サービスは16.2%、ファミリーサポートセンター事業は13.2%となっています。一時預かり保育の認知度は約8割と高くなっていますが、その他の事業については、ファミリーサポートセンター事業が約5割、町内で実施している託児サービスが約3割、子育て家庭ショートステイ事業が2割未満となっており、さらなる周知を行い利用しやすい環境を整えることが重要です。
- あれば利用したい事業について、「緊急時、当日に受け入れ可能な一時預かり保育」が4割以上と最も高くなっています。また、ちょっとした用事の時の預かりや、保育所や学校、学童が終わってから保護者が帰宅するまでの時間の預かりのニーズも高くなっています。

③ 子育てに関して頼れる人や相談先、情報入手について

- 子育てに日常的に関わっている人については、「父母ともに」が7割以上と、両親が協力して子育てをする家庭が増えてきていることがうかがえます。
- 就学前保護者で、こどもをみてもらえる親族がいない人は14.9%、こどもをみてもらえる知人がいない人は67.8%となっています。また、地域活動へ参加していない人は約3割と、祖父母等の親族の助けや近所の人からの助けが得られにくい状況がうかがえます。また、関係団体からは、核家族化や女性の社会進出により、保護者にゆとりがない状況や母親が一人で子育てを抱え込む状況があることが報告されており、子育ての孤立化を防ぐ取組が必要となっています。
- 子育てをする上で気軽に相談できる人がいる人は92.8%となっており、相談相手について、家族や親族、友人や知人以外では、「認定こども園・保育所・幼稚園等の先生」が4割となっています。相談できる人がいない人は6.1%となっており、子育て支援センター等気軽に相談できる環境づくりが大切です。
- 保護者自身が子育て支援の支援者として活動したいと思うかについて、活動したいと思う人の割合は約5割となっています。活動したいと思う人をファミリーサポートセンターや子育てサークル等の活動につなげ、地域における子育て支援を充実させていくことが重要です。
- こどもに関する施策等の情報入手方法について、「よく利用している」割合は、広報はりまが就学前保護者と小学生保護者で約3割、中学生保護者で約2割となっており、こどもの年齢が上がるにつれて利用頻度は下がっています。学校や園などからのお便りは就学前から中学生保護者まで3割台と利用頻度が高くなっています。また、インターネットは7割以上、SNSは4割以上の保護者が利用しています。

④ 必要な子育て支援について

- 関係団体ヒアリングでは、様々な子育て施策とともに、保護者が子育ての楽しさや喜びを感じられるような仕組みが必要という意見があがっています。
- 保育料や給食費の無償化を求める声が多くあがっています。また、理想とすることの人数を実現できない理由として、「子育てや教育にお金がかかる」が最も高くなっており、経済的支援の充実に向けた検討が必要となっています。
- こどもの発達の遅れや障がいへの支援について、こどもの発達に応じた教育が受けられる環境や保育・教育の受け入れ体制の充実が求められています。

⑤ 放課後の過ごし方について

- 就学前保護者が小学校入学後に放課後を過ごさせたい場所について、低学年では「自宅」が5割以上、「放課後児童クラブ」が約4割となっており、前回調査よりも「放課後児童クラブ」が10ポイント以上増加しています。高学年では「自宅」が約7割、「習い事」が4割以上となっています。
- 小学生保護者が放課後を過ごさせたい場所について、低学年では「自宅」が6割以上、「習い事」「放課後児童クラブ」が約3割となっています。高学年では「自宅」が約7割、「習い事」が4割以上となっています。
- 長期休業中の放課後児童クラブの利用意向について、「低学年の間は利用したい」が約2割、「高学年になっても利用したい」が2割以上となっています。

⑥ 保育人材の確保について

- 教育・保育施設で働きたいと思う人は約2割、そのうち保育士等の資格を持っている人は2割以上となっており、有資格者の再就職や保育現場への就職の支援を行う等により、保育人材の確保に努めることが重要です。

(2) 妊産婦・こども・若者の心身の健康について

① 妊産婦や保護者の状況

- 就学前保護者において、【子どもの成長が楽しい】では「常にあてはまる」が約9割となっている一方、【いらいらして子どもにあたってしまった】では「常にあてはまる」「ときどきあてはまる」の合計が6割以上となっています。相談先の確保や保育サービスの活用等により、保護者の心身のケアにつなげていくことが重要です。
- 産後ケア事業の認知度は約7割、利用したことがある人は約2割、利用意向は約3割となっており、必要とする産婦が利用できるような体制を整備することが必要です。
- 【子育ては孤独だと感じる】が「常にあてはまる」「ときどきあてはまる」と回答した割合の合計は、就学前保護者で20.7%となっています。
- 理想とすることの人数を実現できていない人が約3割となっていることから、妊娠期からの切れ目のない支援を充実させ、安心して産み育てられる環境づくりを進めることが重要です。

② こども・若者の心身の健康状況

- 小学生で朝食頻度が少ないこどもほど、授業中に寝てしまうことが多いことや学校を休むことが多くなる傾向がみられます。また、中学生では自分の体の状態で気になることについて「朝、起きられない」が約3割となっており、家庭での規則正しい生活習慣や食習慣の確立を支援することが必要です。
- 中学生のこの1週間の気持ちについて「不安な気持ちになる」では「いつもそうだ」が約2割となっています。
- 相談相手について、小学生・中学生では、保護者や友達が高くなっており、「誰にも相談できない」「誰にも相談したくない」が1割程となっています。若者では、「友達」が最も高く、「相談する人はいない」が1割程となっており、相談できず悩みを抱え込んでいるこどもや若者が一定数いることがうかがえます。
- 関係団体からは、大人や若者など、年齢を問わず気軽に相談ができる場が必要という意見があがっており、ライフステージに応じて相談できる場所が求められます。
- 療育手帳所持者数は増加傾向となっており、障害児のライフステージに応じた切れ目のない支援を身近な地域で受けられる体制の整備と、それぞれの特性に応じた支援が受けられる環境づくりが必要です。

(3) 教育や次世代への支援について

① こどもの自己肯定感について

- 自分のことが好きだと思う割合は、小学生で37.5%、中学生で31.2%、若者で36.4%となっています。いずれも「どちらでもない」の割合が最も高くなっています。
- アンケート調査では、将来の夢や目標を持っている割合は、小学生で約8割、中学生で約6割となっています。また、家族や周りに大切にされていると思う人ほど、夢や目標を持っている割合が高くなっていることから、親や学校の先生など周りの大人との関わりにより、こどもの自己肯定感を高めることで、将来に希望を持って前向きにチャレンジできるこころを育むことが大切です。

② 学校生活や進路について

- 学校生活が楽しいと思う割合は、小学生で69.4%、中学生で72.6%となっています。
- 全国的に不登校の児童生徒は増加傾向にあり、播磨町においても概ね増加傾向となっています。関係団体ヒアリングでは、不登校について、学校でなくても学ぶ機会をつくることは可能という意見があがっていますが、播磨町にはフリースクールがなく、通える場所の必要性が指摘されています。
- アンケート調査では、将来の進学先について、中学生では、「大学」が約4割となっている一方で、「わからない」が1割以上となっています。義務教育段階から、様々な人の生き方に触れ、自らのライフデザインを描けるように支援することが必要です。

③ メディアの利用状況

- メディアでよく利用しているものについて、小学生では「動画」が7割以上、「インターネット」が4割以上となっています。中学生では「動画」が8割以上、「インターネット」「SNS」が約7割となっています。インターネット・SNS・動画の利用目的としては、小学生・中学生ともにゲームをすることや音楽を聴くことが高く、また、中学生ではメッセージのやり取りや動画やライブ配信を見ることも高くなっています。
- インターネットや SNS 等の利用でのトラブルについて、トラブルにあったことはない人が約9割を占めていますが、小学生ではゲームで意図せず課金してしまった人や、SNS 等でいやがらせを受けた人がいることがうかがえます。中学生では SNS 等でのいやがらせが小学生よりも高くなっています。トラブルにあった際に相談しなかった割合が2割以上となっていることから、相談先も含めたインターネット利用に関する教育が必要です。

④ 若者の意識や将来のことについて

- ワークショップでは、高校生から、播磨町は穏やかな町である一方で、遊べる場所や飲食店等の店が少ない、特徴がないという意見があがっており、若者が集まる場所や楽しいイベントの開催などが求められています。
- 若者では、学校や仕事以外の活動について「何もしたことがない」が約7割、今後についても「何もしたくない」が約4割となっており、若者が地域とつながりを持てるよう、様々な活動に関心を持つことができる環境づくりが必要です。
- アンケート調査では、結婚や子育てに関することも含め、経済的な不安を抱える若者が多いことがうかがえます。結婚や子育てにあたっての経済的な不安等を解消し、将来に希望を持つことができるような支援、情報発信が重要となります。

(4) こどもの権利や居場所について

① こどもの権利・意見表明について

- こども基本法の基本理念及びこども大綱の基本的方針には、こども・若者を権利の主体として認識し、多様な人格・個性を尊重し、権利を保障し、こども・若者の今とこれからの最善の利益を図ることが示されています。アンケート調査では、こどもの権利について「知っている」はこども・保護者ともに約3割となっており、社会全体で認識を共有するために、周知・啓発が必要です。
- アンケート調査では、意見を伝えやすい方法や手段について、小学生・中学生・若者ともに「インターネットのアンケートに答える」が高くなっています。意見を伝えやすい工夫やルールについては、「匿名で伝えることができる」が最も高く、次いで「伝えた意見がどのように扱われるかがわかる」が中学生・若者で高くなっていることから、何に意見が活用されるのかを伝えたいうえで、インターネット等を通じて匿名で意見を送ることができるなど、こども・若者が意見を伝えやすい環境を整えることが大切です。

② 居場所について

- アンケート調査では、居場所について「落ち着いてくつろげる場所」「好きなものがあったり、好きなことができる場所」が高くなっています。また、アンケート調査の自由回答では、小学生・中学生から、ボール遊びができる広い公園や室内で自由に過ごせる場所を求める声があがっています。
- ワークショップでは、若者から、居場所だけをつくるのではなく、共通点など何かつながりやすい工夫が必要、またSNSを活用して募集や周知をすることが必要という意見があがっています。
- 播磨町では、多くの団体が小学生の放課後の居場所づくりや親子の居場所づくりなどに取り組んでいます。関係団体ヒアリングでは、運営費やスタッフの確保が課題としてあがっており、活動継続のための支援が求められます。また、個々で活動している団体同士の交流を図り、播磨町全体として居場所づくりを推進することが必要です。

③ こどもの安全確保について

- アンケート調査では、必要なこと、重要だと思う支援について、「チカンや子どもへのいたずら等に対する防犯対策の充実」が5割程となっており、こどもを巻き込む事故や犯罪の発生が多くなっている中、保護者の安全・安心に子育てできる環境への意識が高まっていることが考えられます。事故からこどもを守り、犯罪に巻き込まれないようにするための対策やこどもの登下校時の見守りなど、学校や地域と連携して取り組むことが重要です。

(5) 困難を抱える子育て家庭やこどもの状況について

① 家庭の経済状況

- 過去1年間の家計の経済状況について、「赤字である」の割合は、就学前保護者で 23.3%、小学生保護者で 26.8%、中学生保護者で 28.6%とこどもの年齢が上がるほど家計が厳しくなる状況がうかがえます。また、こどもの将来のために貯蓄をしたいができない割合は、就学前保護者で 30.5%、小学生保護者で 36.0%、中学生保護者で 38.0%となっています。
- 過去1年の間に、お金が足りなくて家族が必要とする食料を買えなかったことが「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」と回答した割合は、就学前保護者で 11.8%、小学生保護者で 16.3%、中学生保護者で 20.0%と、経済的に困難な状況にある家庭が1~2割程あることがうかがえます。

② 児童虐待やヤングケアラーについて

- 虐待相談件数は、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクトで増加傾向となっています。アンケート調査では、児童虐待を見たり聞いたりしたことがある、またはおかしいなと思ったことがある人の割合は、就学前保護者で 11.3%、小学生保護者で 17.4%、中学生保護者で 18.9%となっており、そのうち、役場に連絡するなどの対応を「特に何もしなかった」人の割合は、就学前保護者で 58.4%、小学生保護者で 55.1%、中学生保護者で 64.3%となっており、虐待に気づいた際に、つなぐ先や相談先について周知し、地域全体で虐待を防止する意識の醸成が重要です。
- ヤングケアラーという言葉の認知度について、「言葉も内容も知っている」割合は約7割となっており、ヤングケアラーと思われるこどもがいた場合の対応については、「わからない」が約3割となっています。
- お世話をしている家族がいる人は小学生で 28.2%、中学生で 11.2%となっています。そのうち、きょうだいの世話をしている割合が高く、ほぼ毎日お世話をしている割合が約4割となっています。家族のお世話をすることについて、「大変なので助けてほしい」と思っている割合は、小学生で約1割となっています。
- 中学生では、家族のお世話をすることで、やりがいを感じている割合が約4割となっている一方、友だちと遊ぶ時間や眠る時間がほしいと思っている割合は2割近くとなっています。
- 関係団体ヒアリングでは、貧困やヤングケアラーの問題は自ら声を上げることが難しいため、表面化しにくく、支援が難しいという指摘があがっています。民生委員・児童委員など地域と連携し、ヤングケアラーなど困りごとを抱えた家庭の把握に努めることが重要です。

③ 外国籍のこどもについて

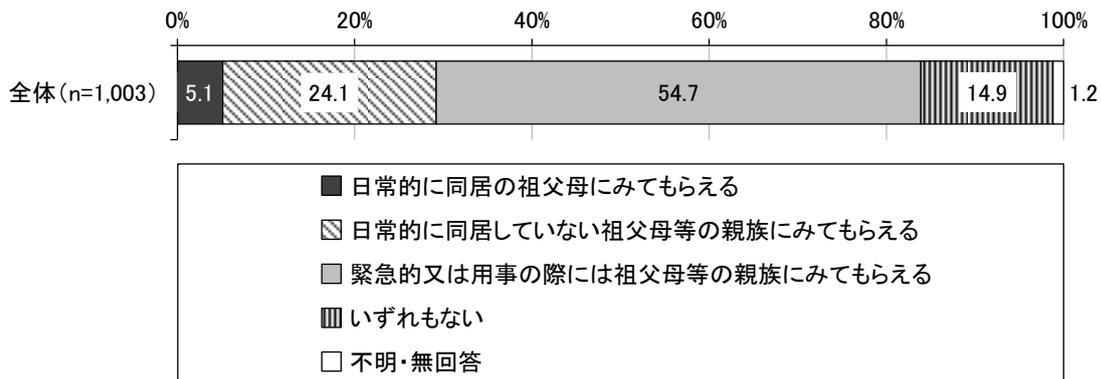
- 外国籍住民は増加傾向となっており、そのうち 18 歳未満も増加しています。関係団体ヒアリングでは、施設や居場所等において外国籍のこどもを受け入れる体制の確保に取り組まれています。外国籍の親は、言葉の壁により困難を抱えることが多いため、外国籍の親への支援を行うことで、こどもの生活の安定につなげることが重要です。

3 保護者アンケート調査結果

(1) 子育て環境や地域とのつながりについて

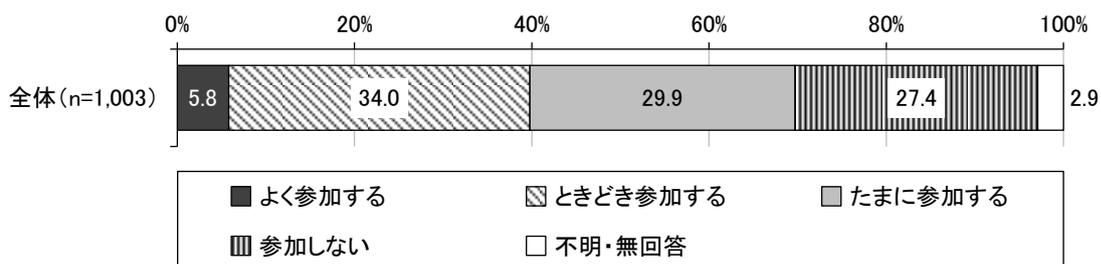
日ごろ、子どもをみてもらえる親族について、就学前保護者では、「緊急的又は用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が54.7%と最も高く、次いで「日常的に同居していない祖父母等の親族にみてもらえる」が24.1%、「いずれもない」が14.9%となっています。

【日ごろ、子どもをみてもらえる親族・知人 就学前保護者問10】



地域の活動への参加について、「ときどき参加する」が34.0%と最も高く、次いで「たまに参加する」が29.9%、「参加しない」が27.4%となっています。

【地域の活動への参加状況 就学前保護者問50】

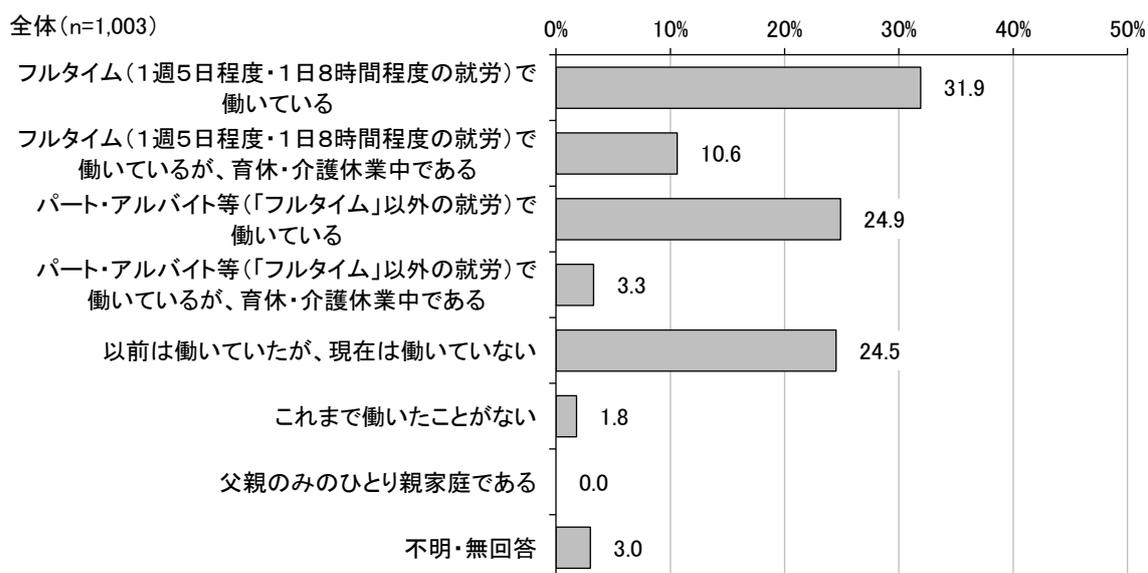


(2) 保護者の働き方について

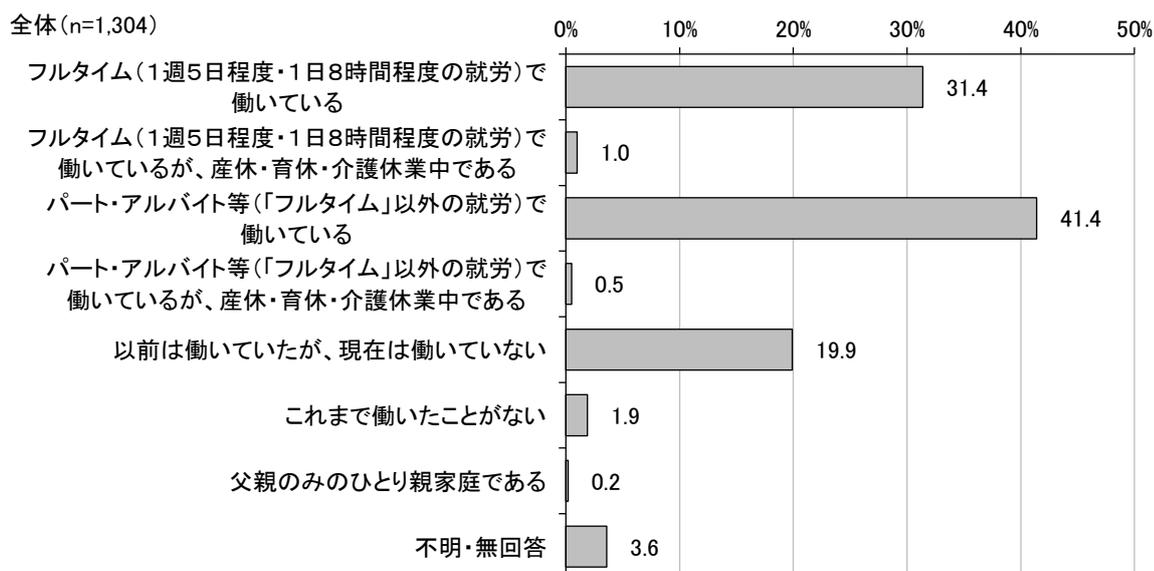
母親の就労状況について、就学前保護者では、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で働いている」が31.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外の就労)で働いている」が24.9%、「以前は働いていたが、現在は働いていない」が24.5%となっています。

小学生保護者では、「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外の就労)で働いている」が41.4%と最も高く、次いで「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で働いている」が31.4%、「以前は働いていたが、現在は働いていない」が19.9%となっています。

【母親の就労状況 就学前保護者問13】

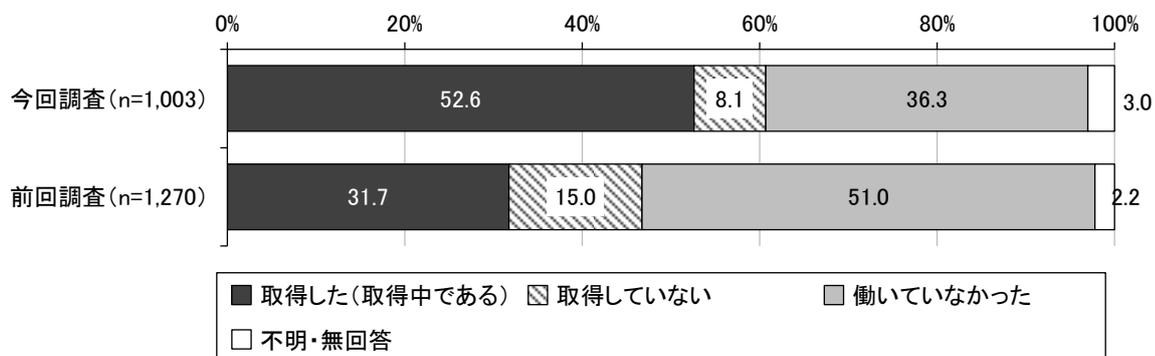


【母親の就労状況 小学生保護者問11】

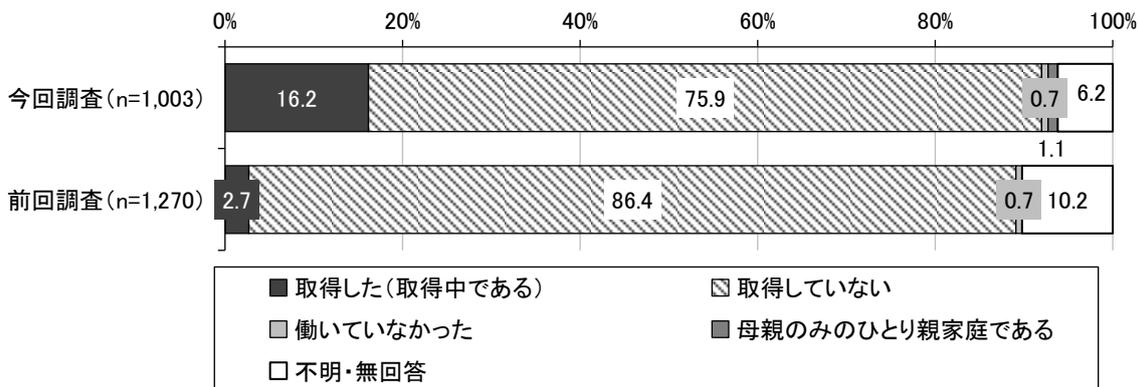


育児休業の取得状況について、就学前保護者の母親では、「取得した(取得中である)」が52.6%と最も高く、次いで「働いていなかった」が36.3%、「取得していない」が8.1%となっており、父親では、「取得していない」が75.9%と最も高く、次いで「取得した(取得中である)」が16.2%となっています。前回調査と比較すると、「取得した」の割合が、母親では20.9ポイント、父親では13.5ポイント増加しています。

【育児休業の取得状況(母親) 就学前保護者問32】



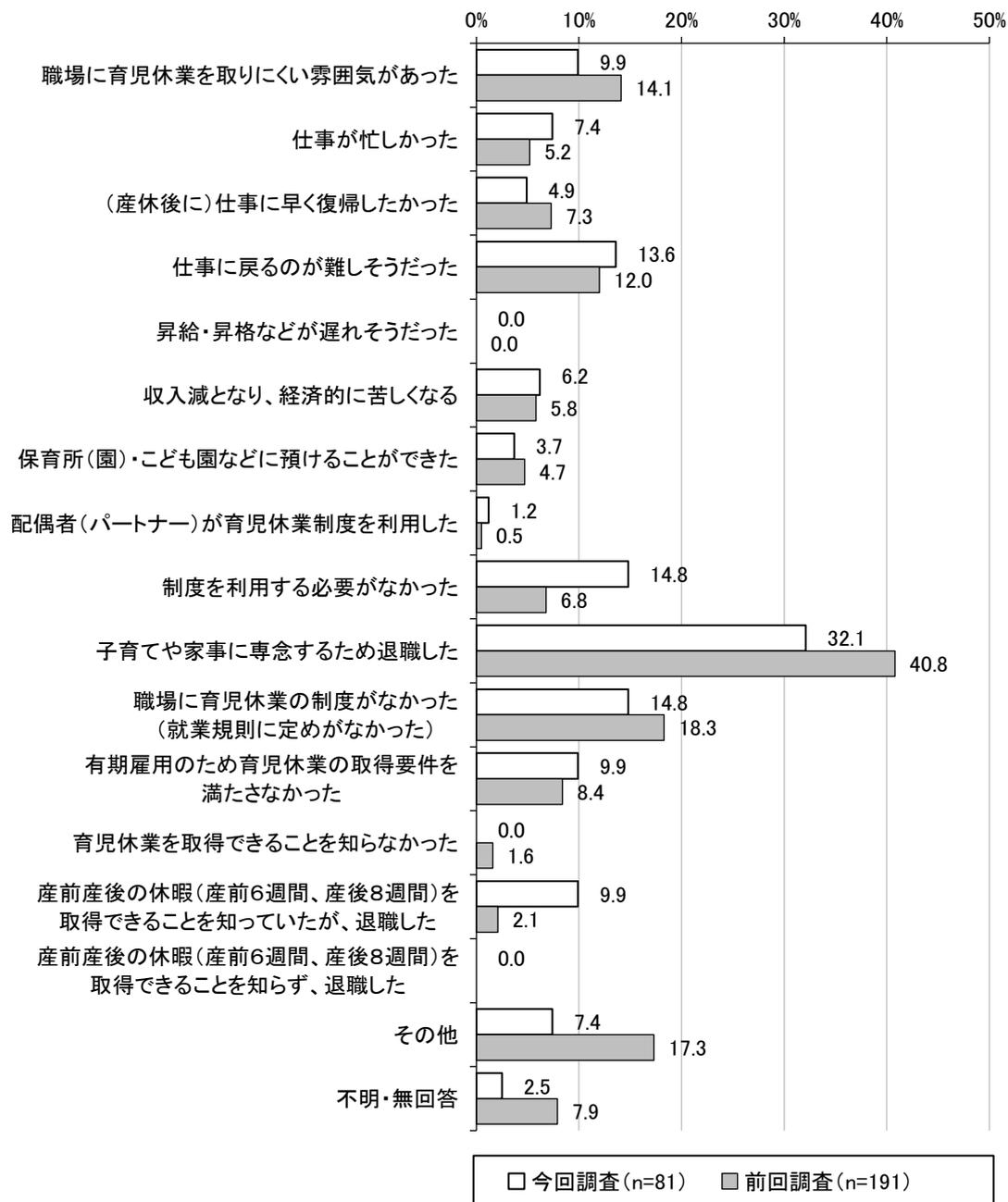
【育児休業の取得状況(父親) 就学前保護者問32】



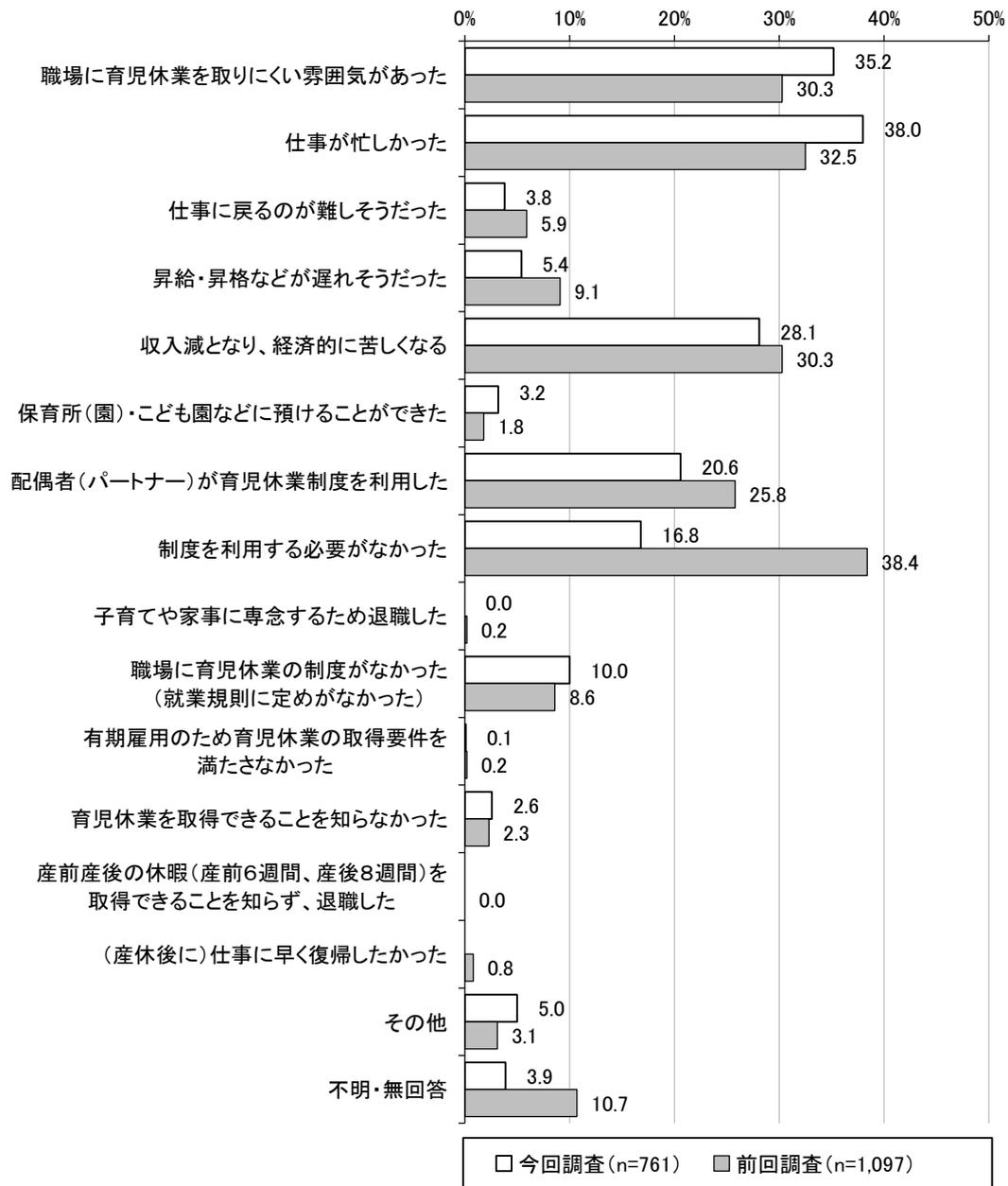
※「母親のみのひとり親家庭である」は今回のみの選択肢。

育児休業を取得していない理由としては、母親では、「子育てや家事に専念するため退職した」が減少しており、出産後も就労を継続する人が増加していることがうかがえます。父親では、「制度を利用する必要がなかった」が大きく減少しています。

【育児休業を取得していない理由（母親） 就学前保護者問32-1】



【育児休業を取得していない理由（父親） 就学前保護者問32-1】



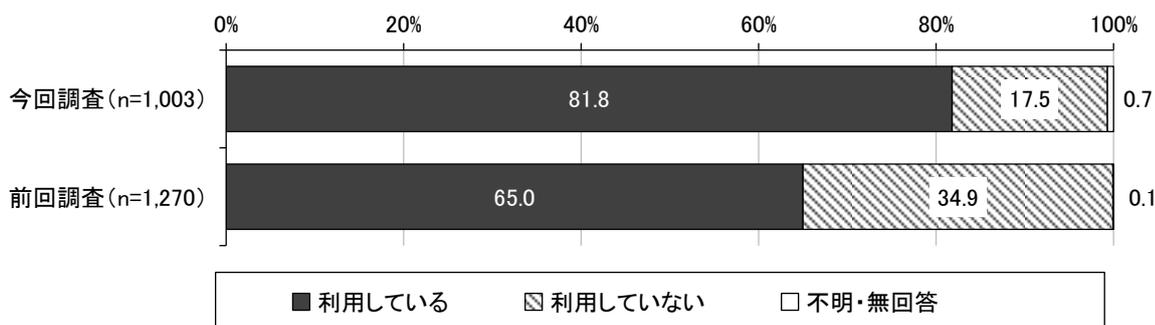
※「産前産後の休暇(産前6週間、産後8週間)を取得できることを知らず、退職した」「(産休後に)仕事に早く復帰したかった」は前回のみの選択肢。

(3) 教育・保育事業の利用について

定期的な教育・保育事業の利用状況について、就学前保護者では、「利用している」が 81.8%と、前回調査から増加しています。

こどもの年齢別にみると、「利用している」が0歳児では25.9%、1歳児では66.4%、2歳児では73.9%、3歳児以上ではほぼ100%となっています。

【定期的な教育・保育事業の利用状況 就学前保護者問14】



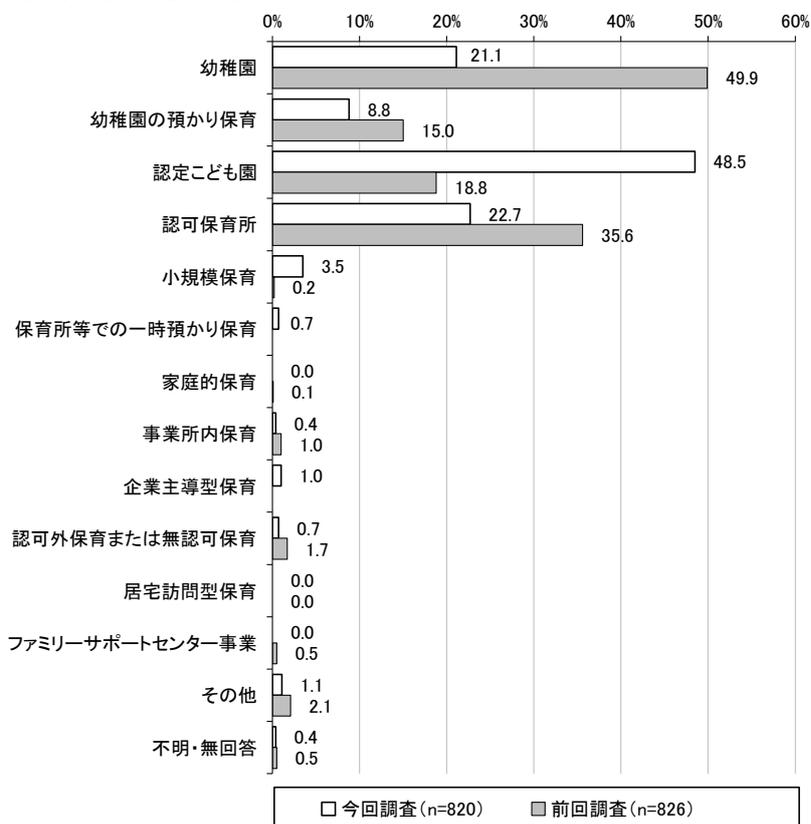
【就学前児童保護者問14 平日の定期的な教育・保育事業の利用の有無× 問3 年齢】

上段：度数 下段：%		問14 認定こども園・幼稚園・保育所などの「定期的な教育・保育の事業」の利用の有無			
		合計	利用している	利用していない	不明・無回答
問3 年齢 (学年基準)	全体	1,003 100.0	820 81.8	176 17.5	7 0.7
	0歳児	135 100.0	35 25.9	100 74.1	- -
	1歳児	122 100.0	81 66.4	39 32.0	2 1.6
	2歳児	134 100.0	99 73.9	33 24.6	2 1.5
	3歳児(年少)	159 100.0	159 100.0	- -	- -
	4歳児(年中)	223 100.0	222 99.6	- -	1 0.4
	5歳児(年長)	212 100.0	209 98.6	1 0.5	2 0.9

利用している事業については、前回調査より「幼稚園」が減少し、「認定こども園」が増加しており、共働き世帯や核家族世帯の増加から保育ニーズが増加していることがうかがえます。

事業の利用時間について、開始時間は、現在・希望ともに「8時台」が最も高くなっています。また、「7時台」が現在は 16.0%となっていますが、希望では 20.9%となっています。終了時間は、現在・希望ともに「17時台」が最も高くなっています。また、「19時台」を希望する割合は 8.8%となっています。

【利用している事業 就学前保護者問14-3】



※「保育所等での一時預かり保育」「企業主導型保育」は今回のみの選択肢。

【利用している事業の利用時間 就学前保護者問14-4】

開始時間

n=820	現在		希望	
	件数	%	件数	%
6時より前	1	0.1	0	0.0
6時台	1	0.1	4	0.5
7時台	131	16.0	171	20.9
8時台	488	59.5	418	51.0
9時台	180	22.0	136	16.6
10時より後	13	1.6	11	1.3
不明・無回答	6	0.7	80	9.8

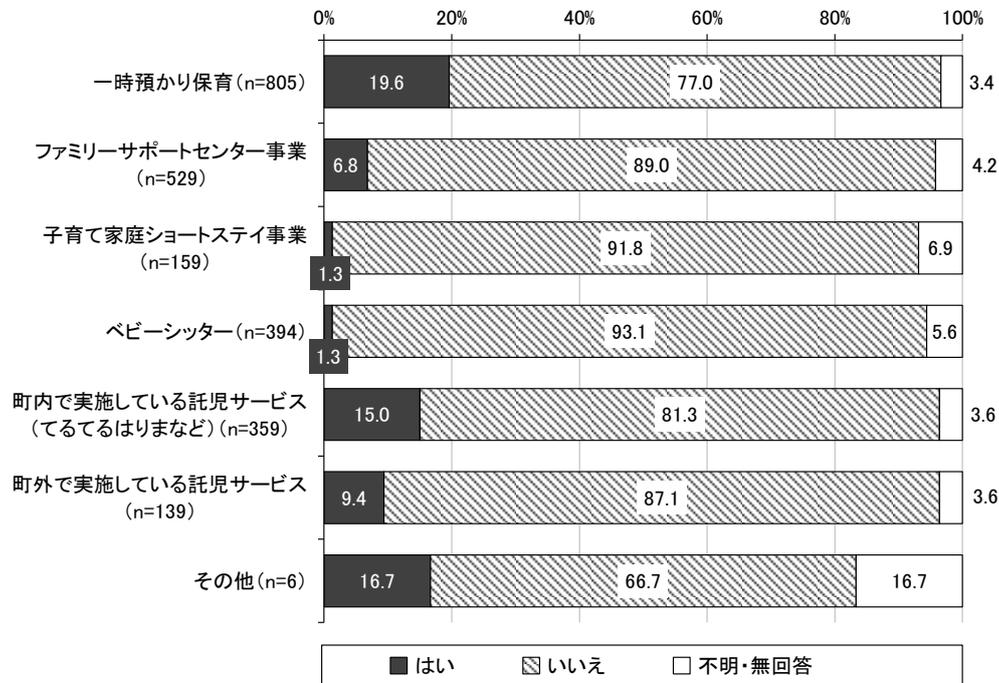
終了時間

n=820	現在		希望	
	件数	%	件数	%
14時より前	144	17.6	18	2.2
14時台	51	6.2	39	4.8
15時台	48	5.9	85	10.4
16時台	209	25.5	150	18.3
17時台	244	29.8	229	27.9
18時台	114	13.9	145	17.7
19時台	3	0.4	72	8.8
20時台	0	0.0	2	0.2
21時より後	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	7	0.9	80	9.8

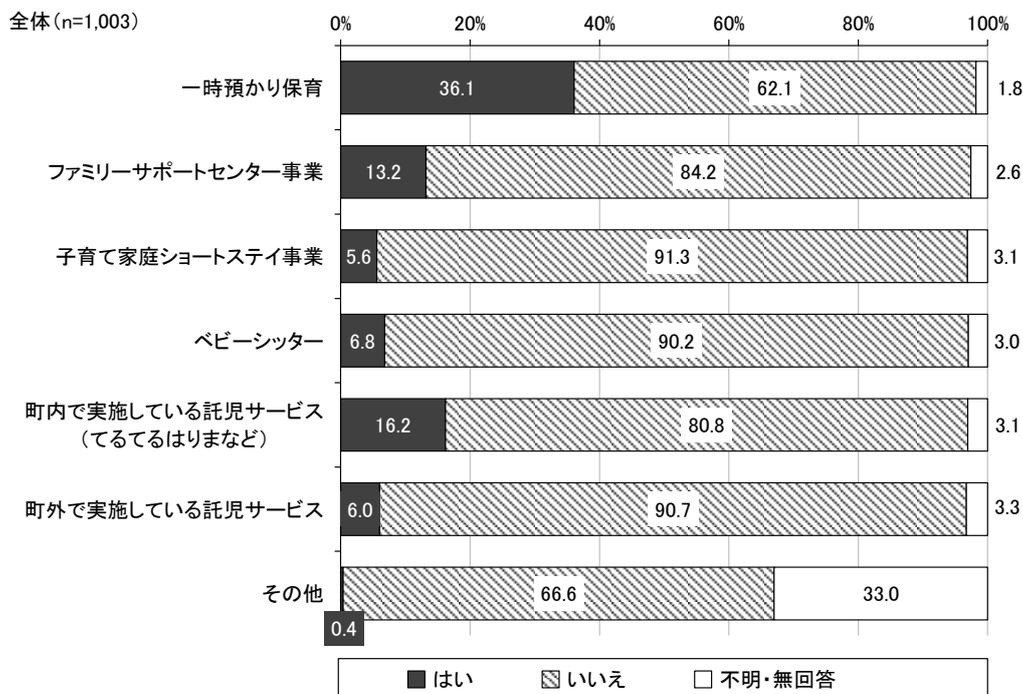
不定期の事業の利用経験については、利用したことがある割合が、「一時預かり保育」は 19.6%、「町内で実施している託児サービス」が 15.0%、「町外で実施している託児サービス」が 9.4%となっています。

不定期の事業の利用意向については、利用したい割合が、「一時預かり保育」は 36.1%、「町内で実施している託児サービス」が 16.2%、「ファミリーサポートセンター事業」が 13.2%となっています。

【不定期の事業の利用経験 就学前保護者問25】



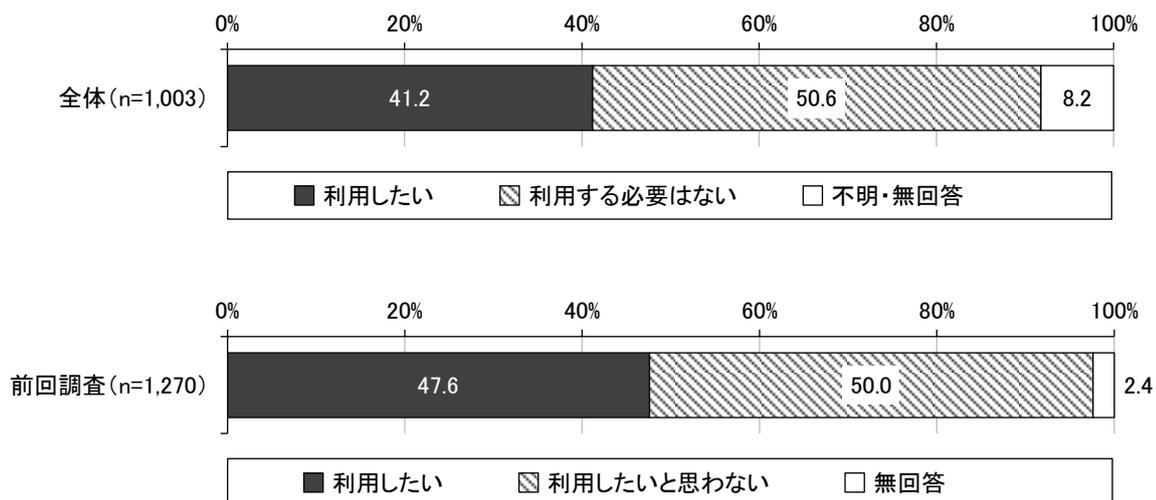
【不定期の事業の利用意向 就学前保護者問26】



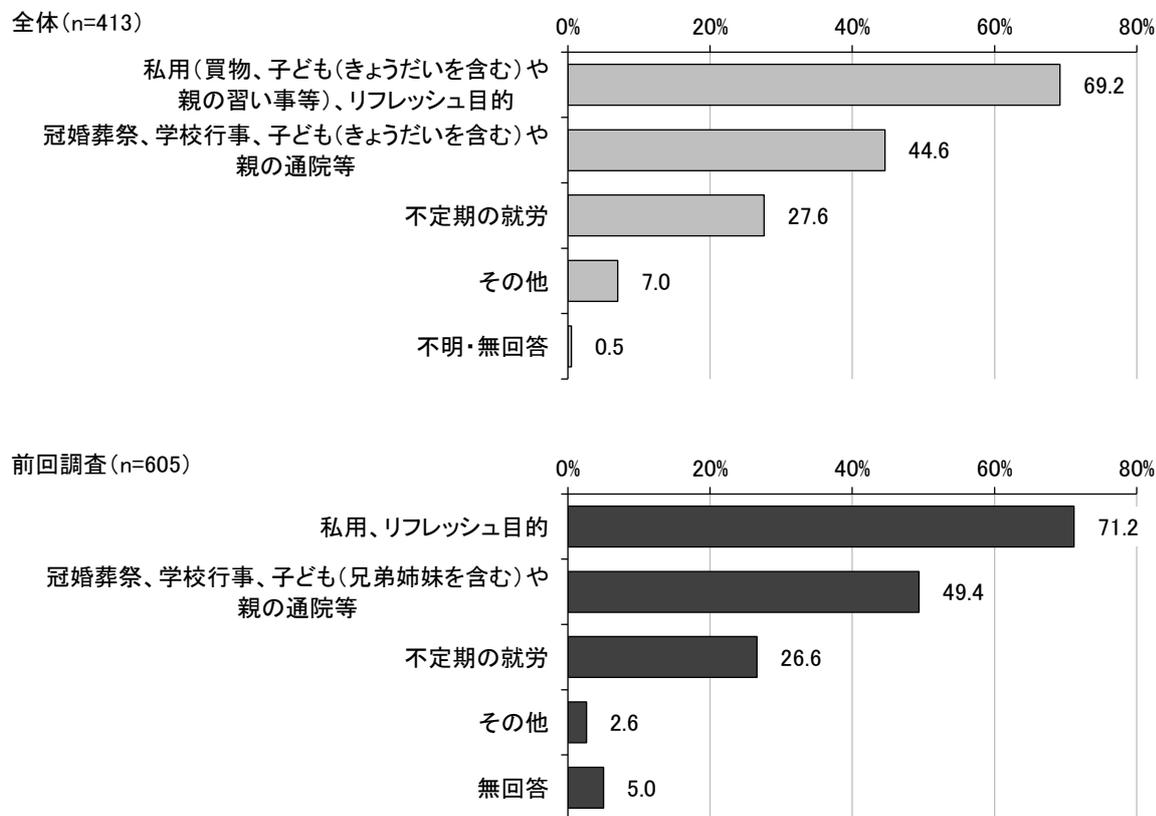
一時預かり等の保育サービスの利用希望については、「利用したい」が41.2%、「利用する必要はない」が50.6%となっています。

利用したい理由については、「私用（買物、子ども（きょうだいを含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が69.2%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子ども（きょうだいを含む）や親の通院等」が44.6%、「不定期の就労」が27.6%となっています。

【一時預かり等の保育サービスの利用希望 就学前保護者問27】



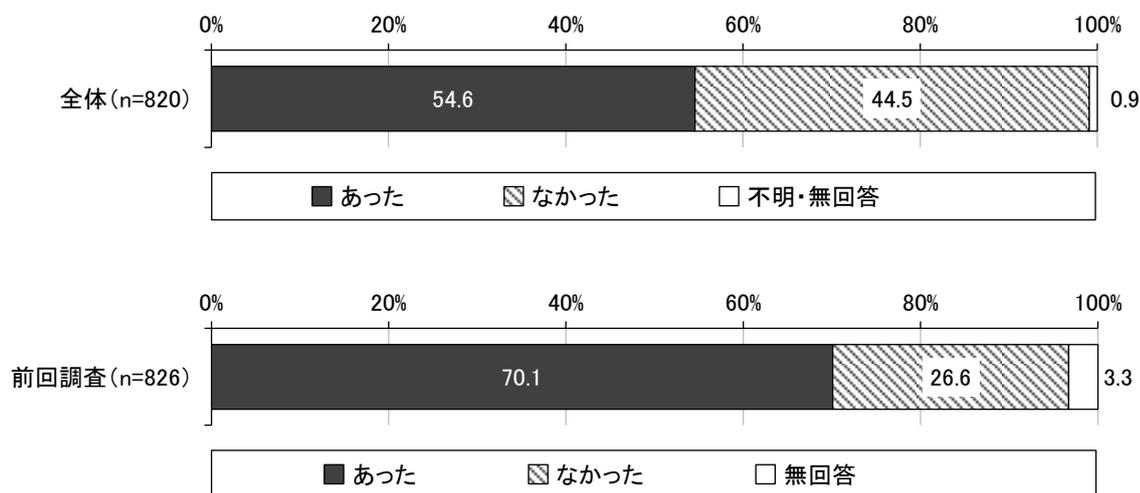
【利用したい理由 就学前保護者問27 (問27で「利用したい」と回答した方)】



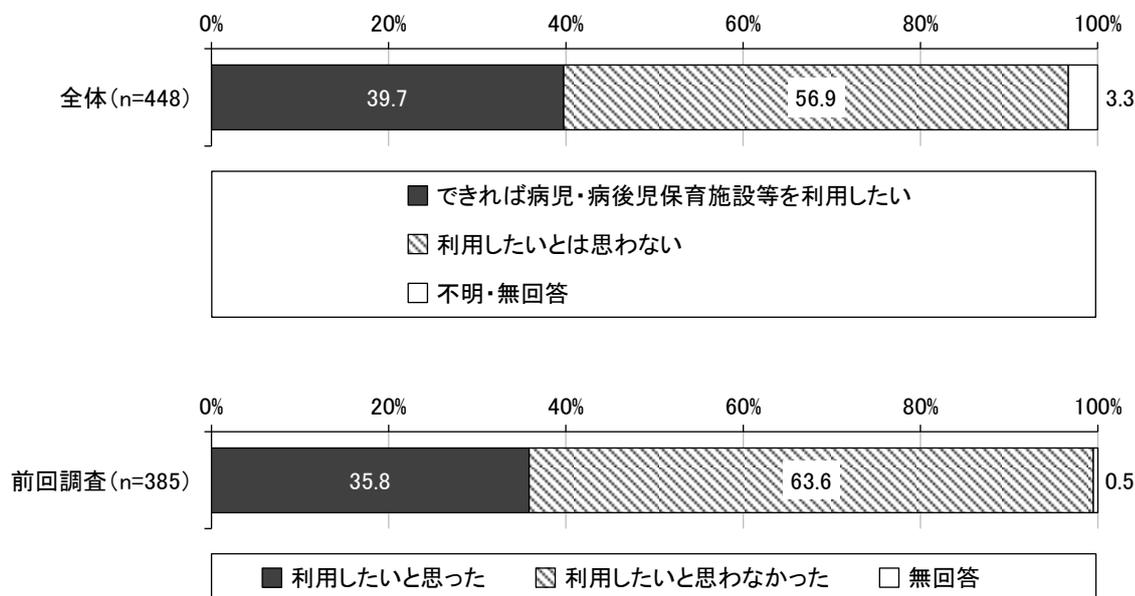
お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できないことがあったかについては、「あった」が 54.6%、「なかった」が 44.5%となっています。

病児のための保育施設等の利用意向については、「利用したいとは思わない」が 56.9%と、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」の 39.7%を上回っています。

【直近1年間に、お子さんが病気やケガで通常の事業が利用できないことがあったか 就学前保護者問23】



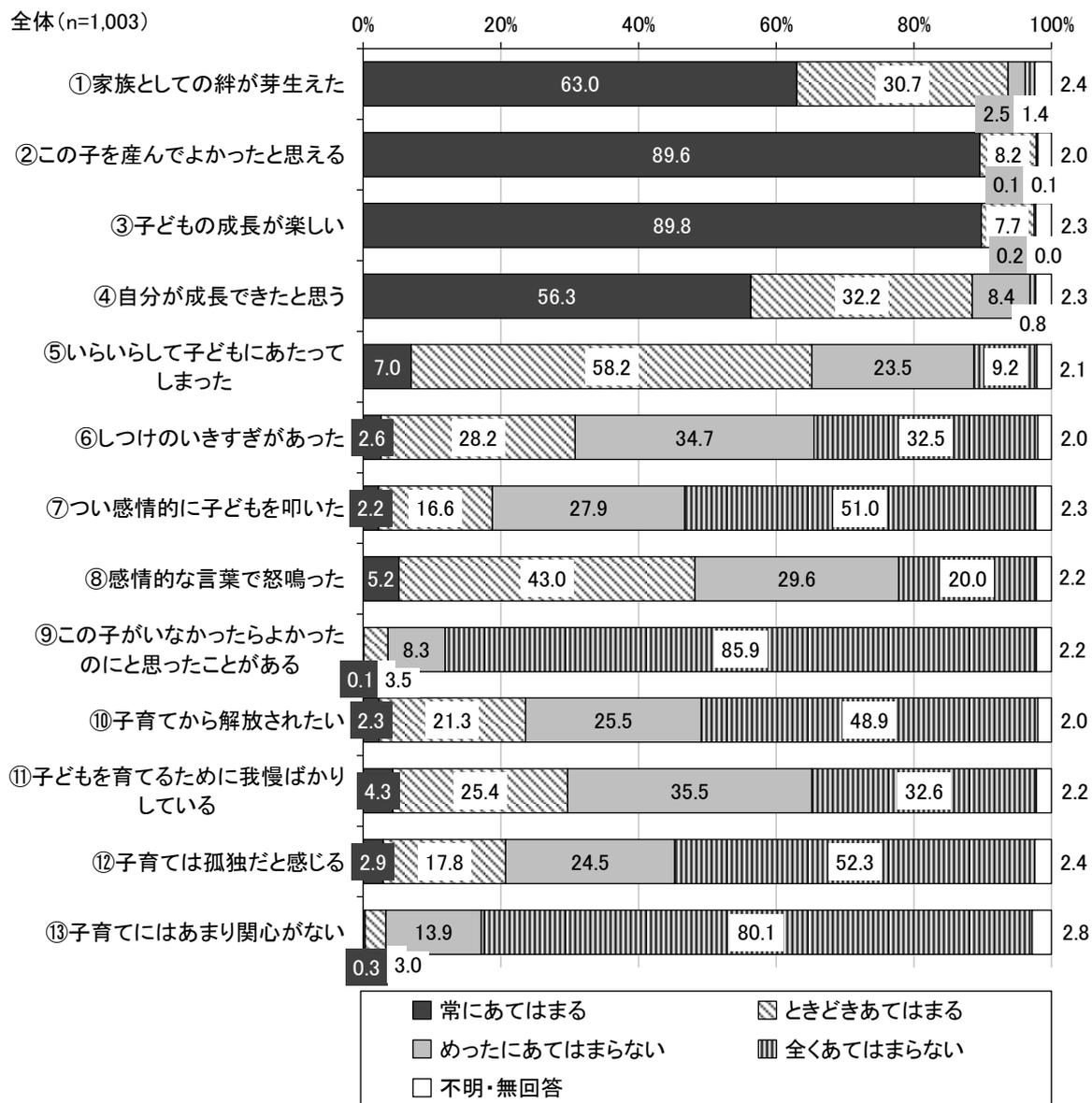
【「できれば病児のための保育施設等を利用したいと思ったか 就学前保護者問23-2 (問23で「あった」と回答した方)】



(4) 子育てや養育について

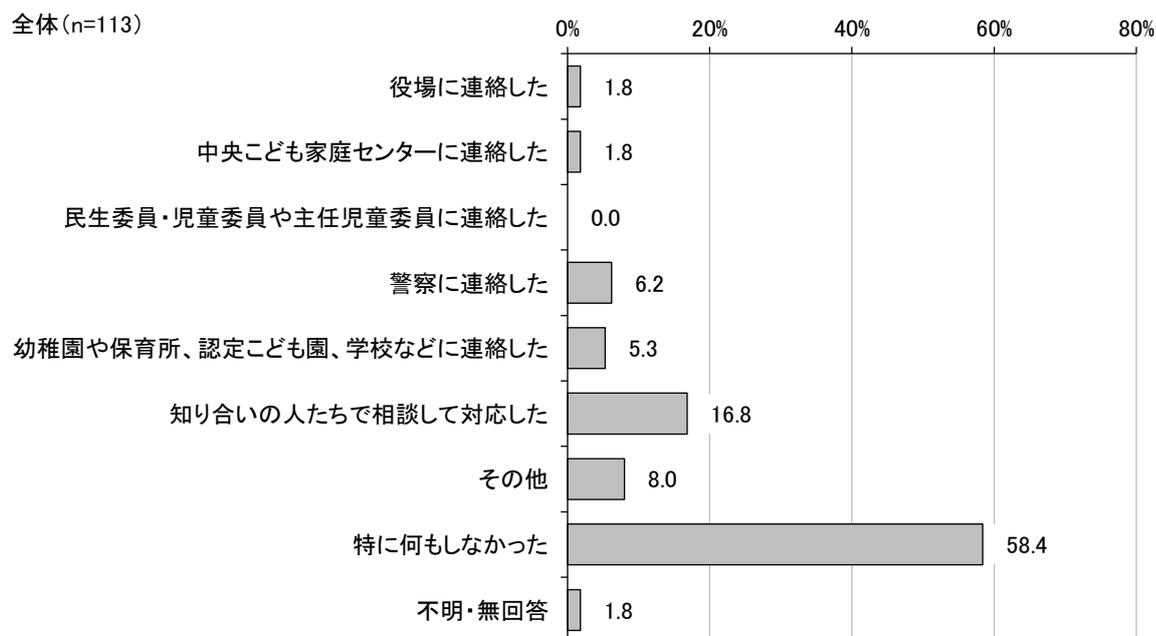
これまでの子育ての中であったこと、思ったことについて、【①家族としての絆が芽生えた】【②この子を産んでよかったと思える】【③子どもの成長が楽しい】【④自分が成長できたと思う】では「常にあてはまる」、【⑤いらいらして子どもにあたってしまった】【⑧感情的な言葉で怒鳴った】では「ときどきあてはまる」、【⑥しつけのいきすぎがあった】【⑩子どもを育てるために我慢ばかりしている】では「めったにあてはまらない」、その他の項目では「全くあてはまらない」が最も高くなっています。

【これまでの子育ての中で次のようなことがあったか 就学前保護者問40】



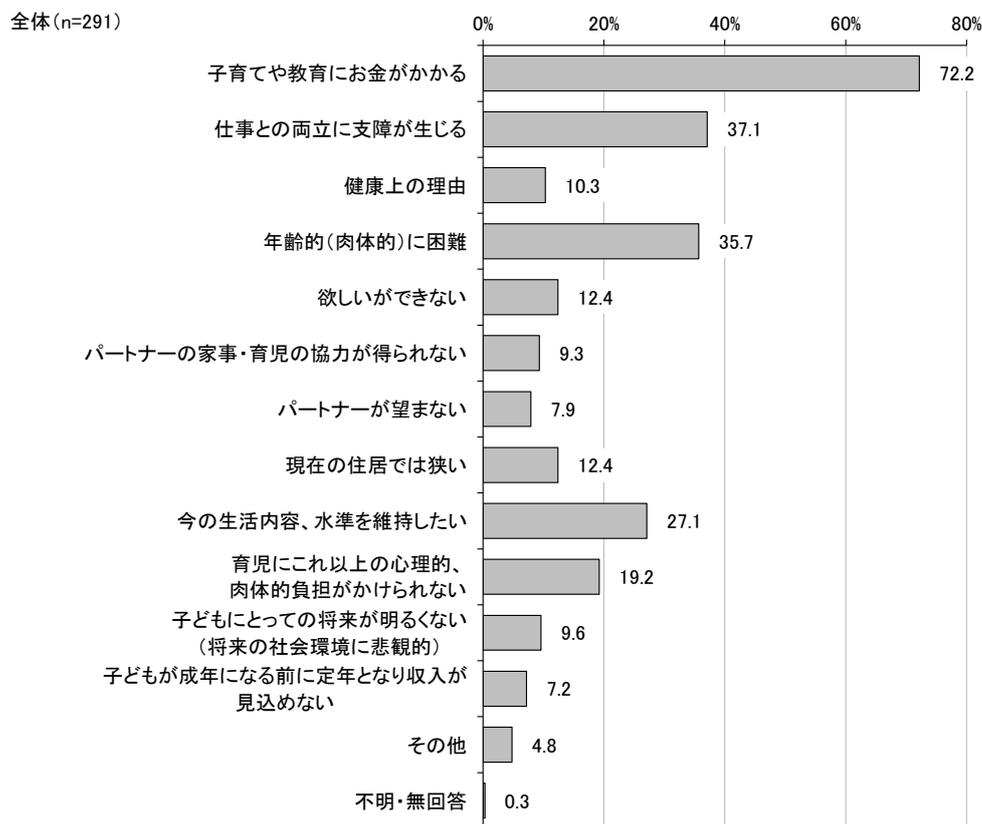
虐待を見たり聞いたりした場合にどのように対応したかについて、「特に何もなかった」が 58.4%と最も高く、次いで「知り合いの人たちで相談して対応した」が 16.8%、「警察に連絡した」が 6.2%となっています。

【虐待を見たり聞いたりした場合の対応 就学前保護者問41-1（問41で身近なところで子どもの虐待を見たり聞いたりしたことが『ある』と回答した方）】



理想とする子どもの人数を実現できない理由について、「子育てや教育にお金がかかる」が72.2%と最も高く、次いで「仕事との両立に支障が生じる」が37.1%、「年齢的(肉体的)に困難」が35.7%となっています。

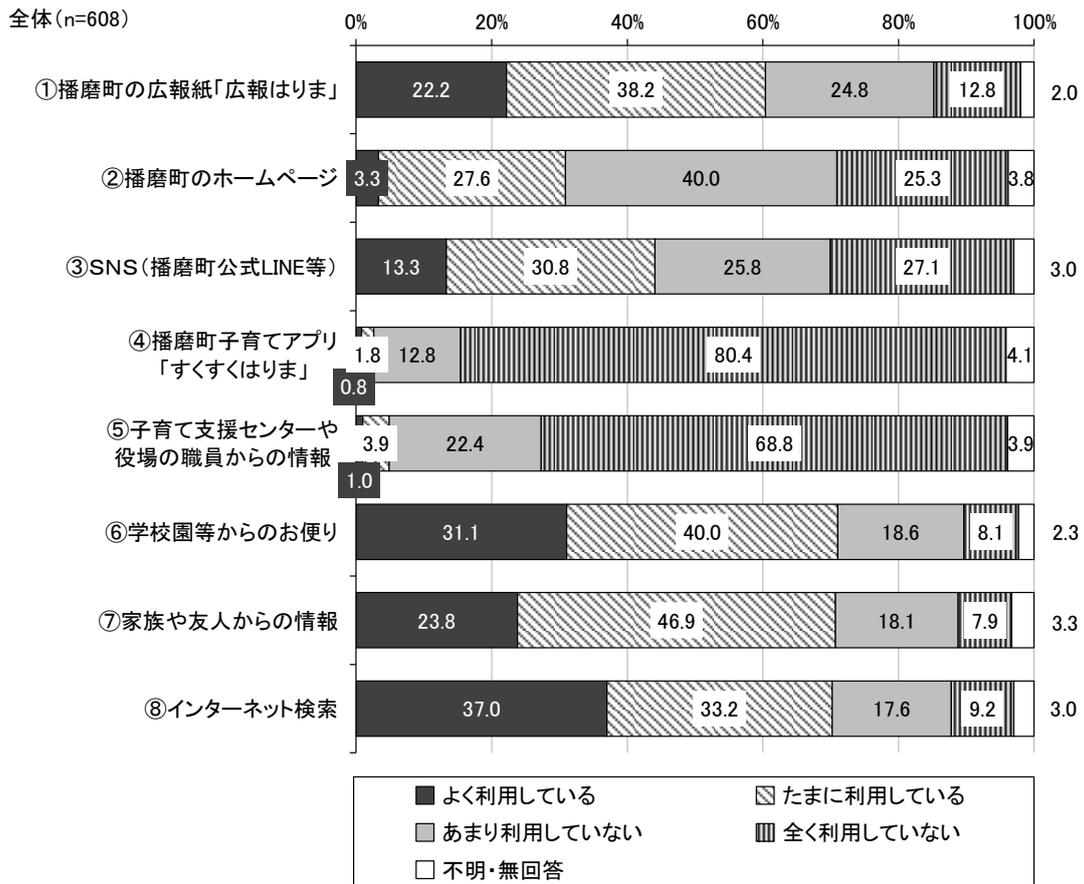
【理想とする子どもの人数を実現できない理由 就学前保護者問46-1(問46で今後の出産予定人数が理想の子どもの人数を下回る方)】



(5) 今後の子育て施策について

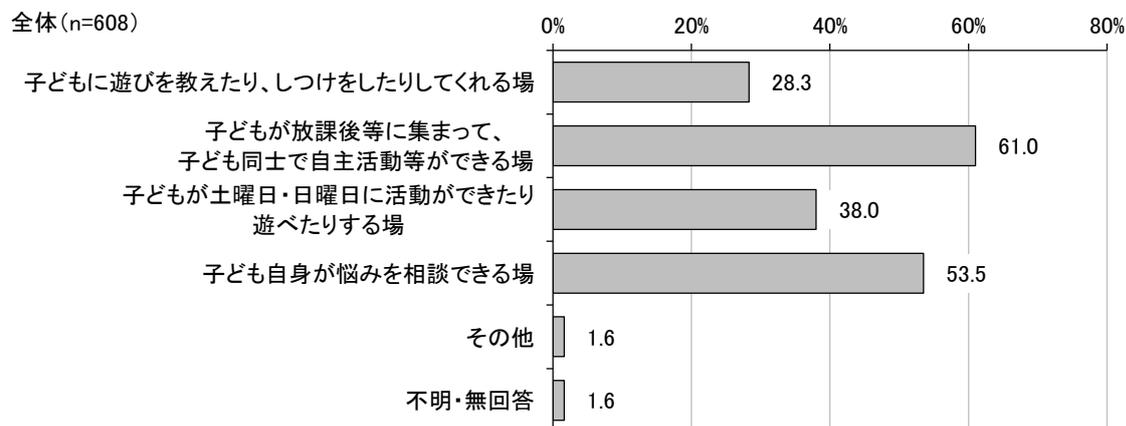
情報を得るために利用しているものについて、【②播磨町のホームページ】では「あまり利用していない」、【④播磨町子育てアプリ「すくすくはりま」】【⑤子育て支援センターや役場の職員からの情報】では「全く利用していない」、【⑧インターネット検索】では「よく利用している」、その他の項目では「たまに利用している」が最も高くなっています。

【子どもに関する施策等の情報を得るために利用しているもの 中学生保護者問27】



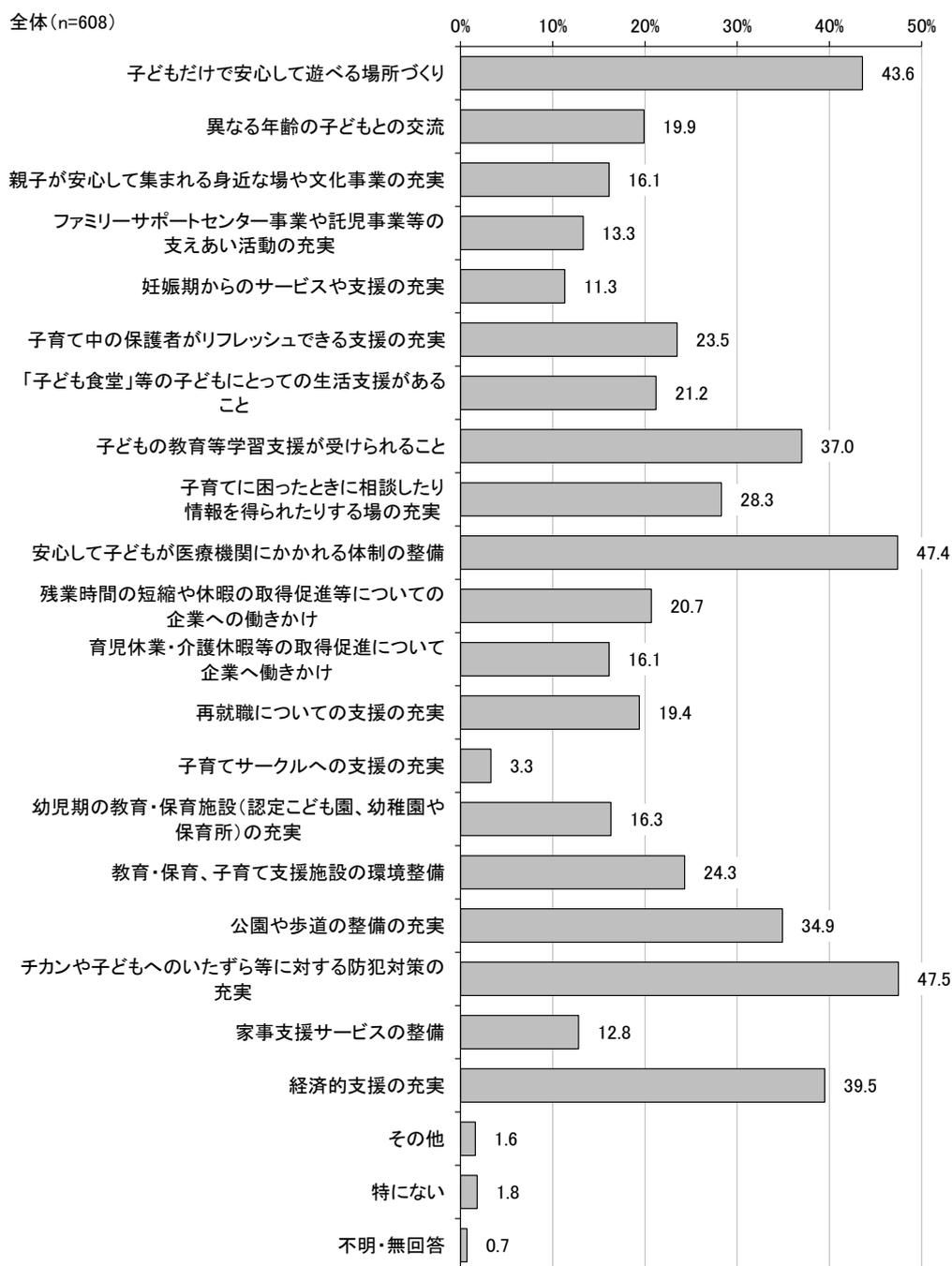
子ども同士が交流等を行うことができる場として望ましいものについて、「子どもが放課後等に集まって、子ども同士で自主活動等ができる場」が 61.0%と最も高く、次いで「子ども自身が悩みを相談できる場」が 53.5%、「子どもが土曜日・日曜日に活動ができたり遊べたりする場」が 38.0%となっています。

【身近な地域で、子ども同士が交流等を行うことができる場ができた場合、どのようなものが望ましいと思うか 中学生保護者問28】



現在または将来的に必要としていること、重要だと思う支援等について、「チカンや子どもへのいたづら等に対する防犯対策の充実」が47.5%と最も高く、次いで「安心して子どもが医療機関にかかれる体制の整備」が47.4%、「子どもだけで安心して遊べる場所づくり」が43.6%となっています。

【現在または将来的に必要としていること、重要だと思う支援等 中学生保護者問29】



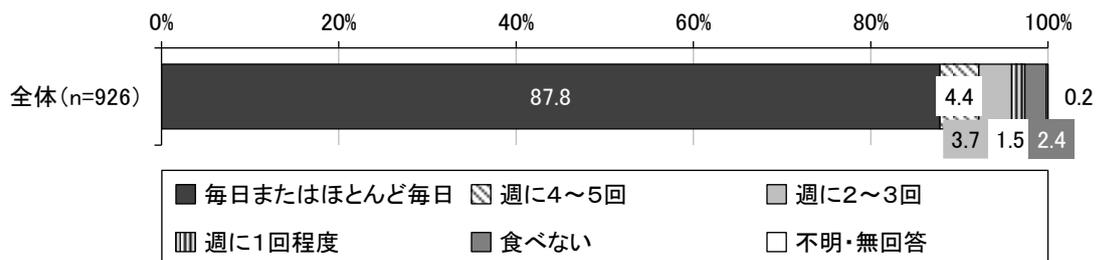
4 こども・若者アンケート調査結果

(1) ふだんの生活について

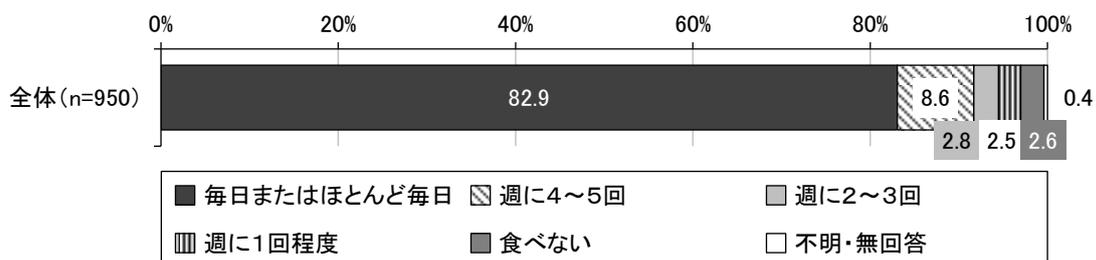
朝食の摂取状況について、小学生では、「毎日またはほとんど毎日」が 87.8%と最も高く、次いで「週に4~5回」が 4.4%、「週に2~3回」が 3.7%となっています。

中学生では、「毎日またはほとんど毎日」が 82.9%と最も高く、次いで「週に4~5回」が 8.6%、「週に2~3回」が 2.8%となっています。

【朝食の摂取状況 小学生問6】



【朝食の摂取状況 中学生問6】



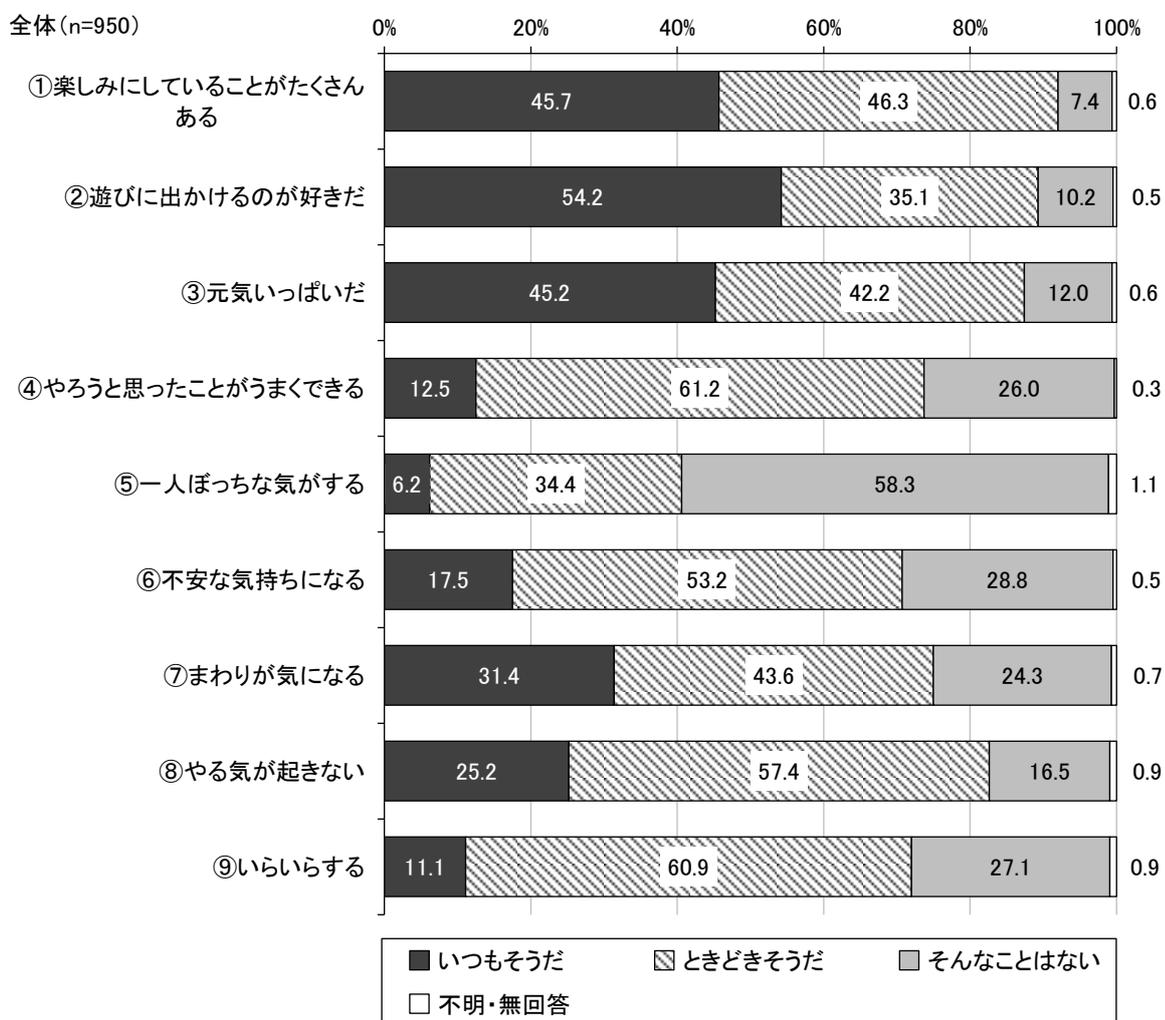
学校での生活について、朝食の摂取状況別にみると、朝食の頻度が少ないほど、授業中に寝てしまうことが多いことや学校を休むことが多くなる傾向がみられます。

【小学生問10 学校での生活や行事などで次のようなことがありますか。×問6 朝食頻度】

上段：度数 下段：%		問10 学校での生活や行事などで次のようなことがありますか。							
		合計	ちこくすることが多い	授業中に寝てしまうことが多い	宿題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	学校を休むことが多い	提出物を出すのがおくれることが多い	校外学習や宿泊活動など校外での活動を休む
問6 朝食頻度	全体	926 100.0	55 5.9	40 4.3	117 12.6	196 21.2	35 3.8	145 15.7	6 0.6
	毎日またはほとんど毎日	813 100.0	34 4.2	22 2.7	84 10.3	157 19.3	22 2.7	110 13.5	3 0.4
	週に4～5回	41 100.0	4 9.8	4 9.8	10 24.4	11 26.8	1 2.4	11 26.8	1 2.4
	週に2～3回	34 100.0	9 26.5	4 11.8	11 32.4	13 38.2	5 14.7	7 20.6	- -
	週に1回程度	14 100.0	2 14.3	2 14.3	4 28.6	5 35.7	3 21.4	6 42.9	- -
	食べない	22 100.0	6 27.3	7 31.8	7 31.8	10 45.5	4 18.2	11 50.0	2 9.1
			問10 学校での生活や行事などで次のようなことがありますか。						
上段：度数 下段：%		合計	運動会や音楽会などの学校行事を休むことが多い	保健室で過ごすことが多い	学校ではひとりで過ごすことが多い	友だちと遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	不明・無回答	
問6 朝食頻度	全体	926 100.0	7 0.8	22 2.4	71 7.7	63 6.8	545 58.9	- -	
	毎日またはほとんど毎日	813 100.0	4 0.5	18 2.2	54 6.6	51 6.3	512 63.0	- -	
	週に4～5回	41 100.0	- -	- -	6 14.6	5 12.2	14 34.1	- -	
	週に2～3回	34 100.0	- -	1 2.9	5 14.7	5 14.7	9 26.5	- -	
	週に1回程度	14 100.0	- -	1 7.1	2 14.3	- -	3 21.4	- -	
	食べない	22 100.0	3 13.6	2 9.1	4 18.2	2 9.1	6 27.3	- -	

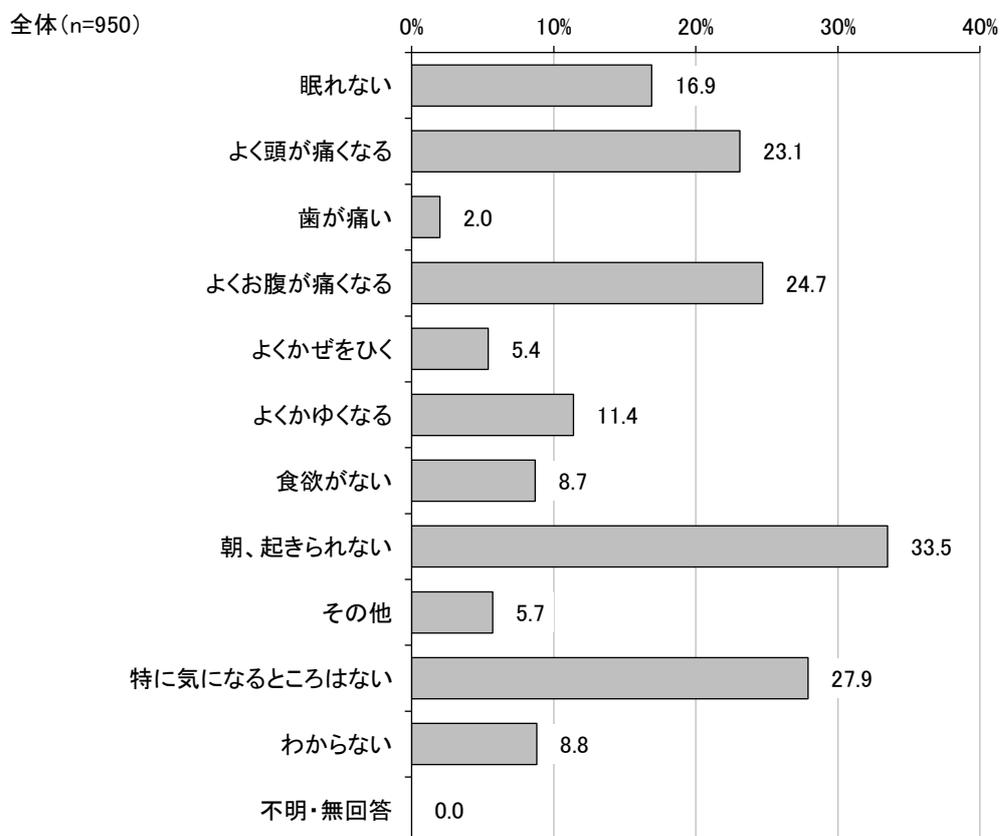
この1週間の気持ちや状況について、【②遊びに出かけるのが好きだ】【③元気いっぱいだ】では「いつもそくだ」、【⑤一人ぼちな気がする】では「そんなことはない」、その他の項目では「ときどきそくだ」が最も高くなっています。

【この1週間、どんな気持ちや状況だったか 中学生問17】



自分の体の状態で気になることについて、「朝、起きられない」が33.5%と最も高く、次いで「特に気になるところはない」が27.9%、「よくお腹が痛くなる」が24.7%となっています。

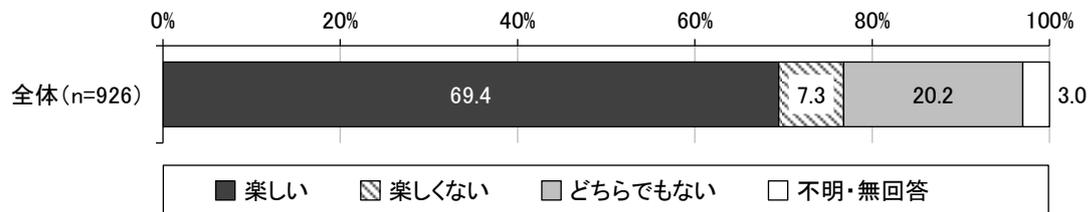
【自分の体の状態で気になることはあるか 中学生問18】



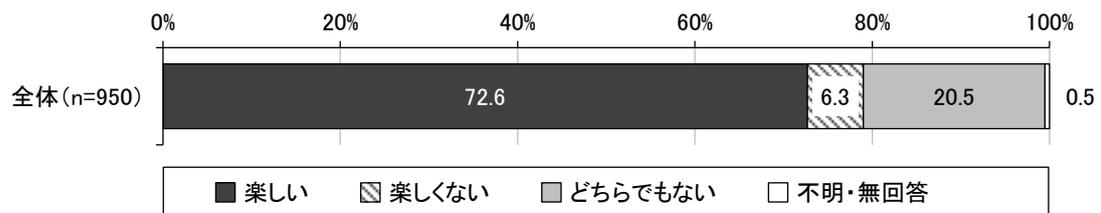
学校生活について、小学生では、「楽しい」が 69.4%と最も高く、次いで「どちらでもない」が 20.2%、「楽しくない」が 7.3%となっています。

中学生では、「楽しい」が 72.6%と最も高く、次いで「どちらでもない」が 20.5%、「楽しくない」が 6.3%となっています。

【学校生活について 小学生問9】



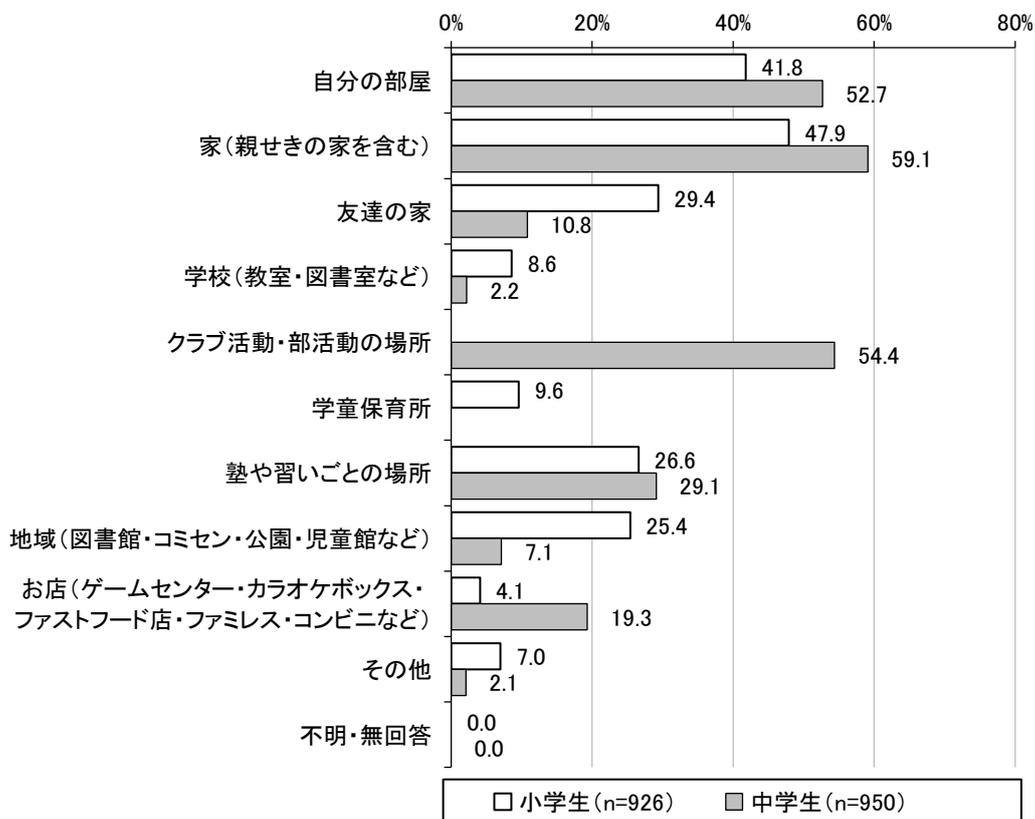
【学校生活について 中学生問9】



放課後などの自由時間に過ごす場所について、小学生では、「家(親せきの家を含む)」が47.9%と最も高く、次いで「自分の部屋」が41.8%、「友達の家」が29.4%となっています。

中学生では、「家(親せきの家を含む)」が59.1%と最も高く、次いで「クラブ活動・部活動の場所」が54.4%、「自分の部屋」が52.7%となっています。

【放課後などの自由時間に過ごす場所 小学生、中学生問Ⅱ】



※「学童保育所」は小学生のみ、「クラブ活動・部活動の場所」は中学生のみの選択肢。

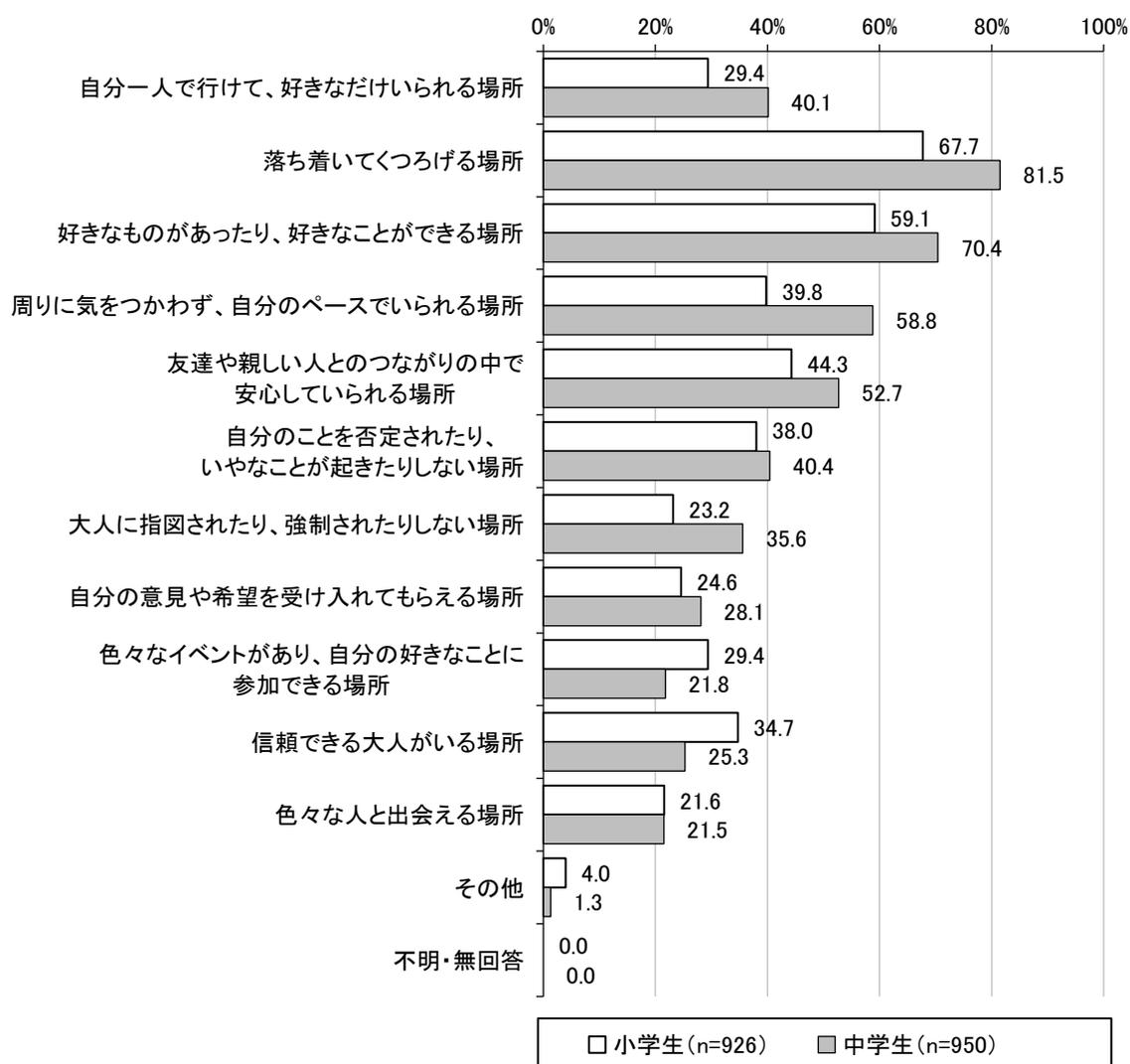
(2) 居場所について

「居場所」がどんな所かについて、小学生では、「落ち着いてくつろげる場所」が67.7%と最も高く、次いで「好きなものがあったり、好きなことができる場所」が59.1%、「友達や親しい人とのつながりの中で安心していられる場所」が44.3%となっています。

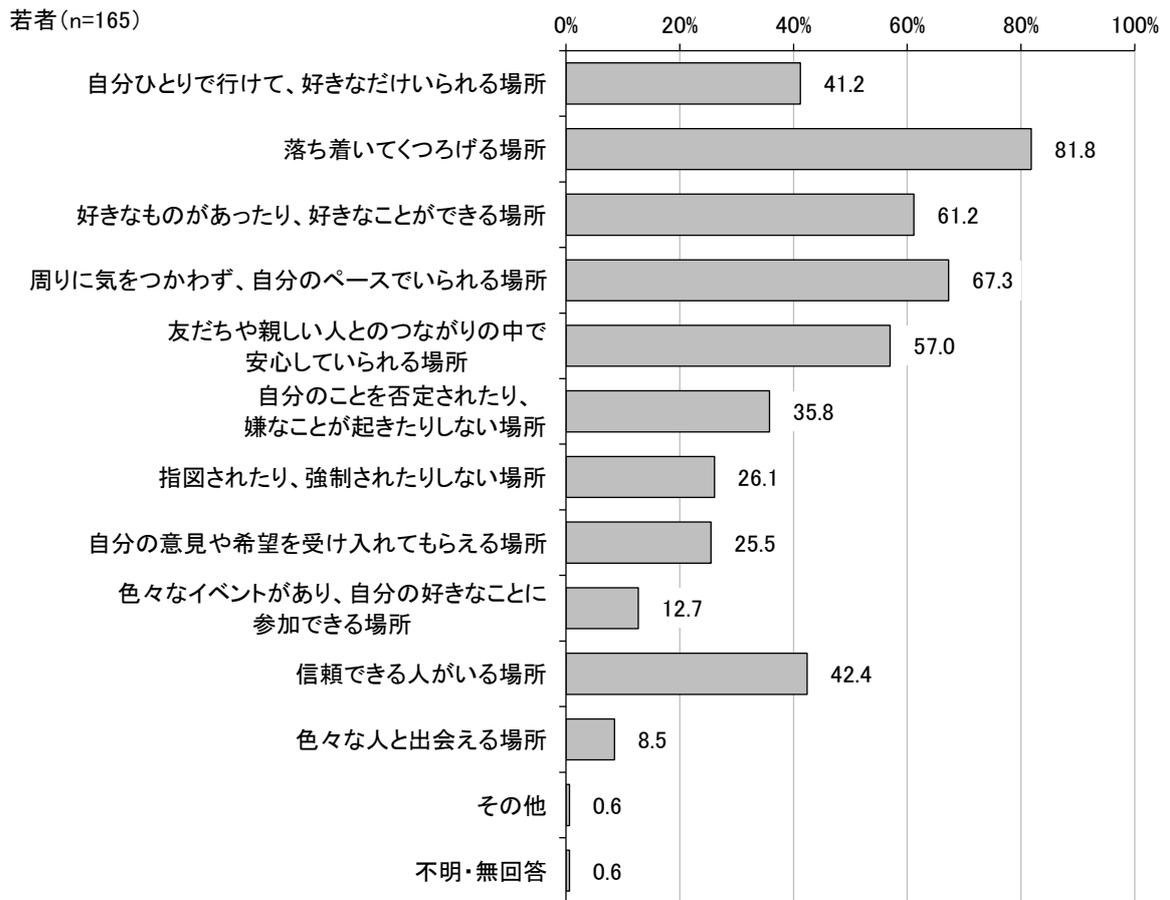
中学生では、「落ち着いてくつろげる場所」が81.5%と最も高く、次いで「好きなものがあったり、好きなことができる場所」が70.4%、「周りに気をつかわず、自分のペースでいられる場所」が58.8%となっています。

若者では、「落ち着いてくつろげる場所」が81.8%と最も高く、次いで「周りに気をつかわず、自分のペースでいられる場所」が67.3%、「好きなものがあったり、好きなことができる場所」が61.2%となっています。

【居場所はどんな所か 小学生、中学生問13】



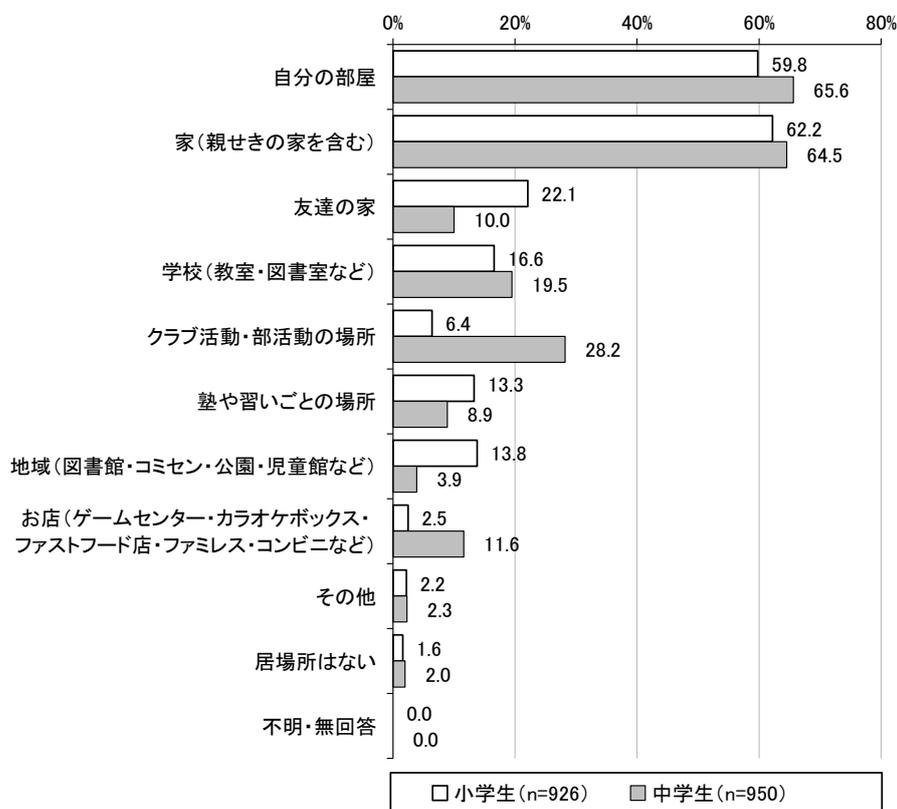
【居場所はどんな所か 若者問7】



あなたにとっての「居場所」はどこかについて、小学生では、「家（親せきの家をふくむ）」が 62.2%と最も高く、次いで「自分の部屋」が 59.8%、「友達の家」が 22.1%となっています。

中学生では、「自分の部屋」が 65.6%と最も高く、次いで「家（親せきの家を含む）」が 64.5%、「クラブ活動・部活動の場所」が 28.2%となっています。

【居場所はどこか 小学生、中学生問14】



自由回答意見では、安心して過ごせる場所、自由に過ごせる場所などの意見があがっています。また、ボール遊びができる公園や広い公園を求める声が多く上がっています。

【居場所に関する意見 小学生、中学生 自由回答】

調査	意見（抜粋）
小学生	安心して、ゆっくりしていただける場所がほしい
	播磨町民みんなが交流できるようなイベントやフリースペースがあったら良い
	みんなで遊べる室内の広場。安全に遊べるようなところ
中学生	広い公園やボール遊びができる公園があったら良い
	子どもだけで行けて、遊べるような施設が今は少ないので増やしてほしい
	学校に行きたくない気持ち、教室に入りにくい気持ちがわかる大人がいてほしい
	ゲームや自習など何でもできる自由な空間をつくらしてほしい

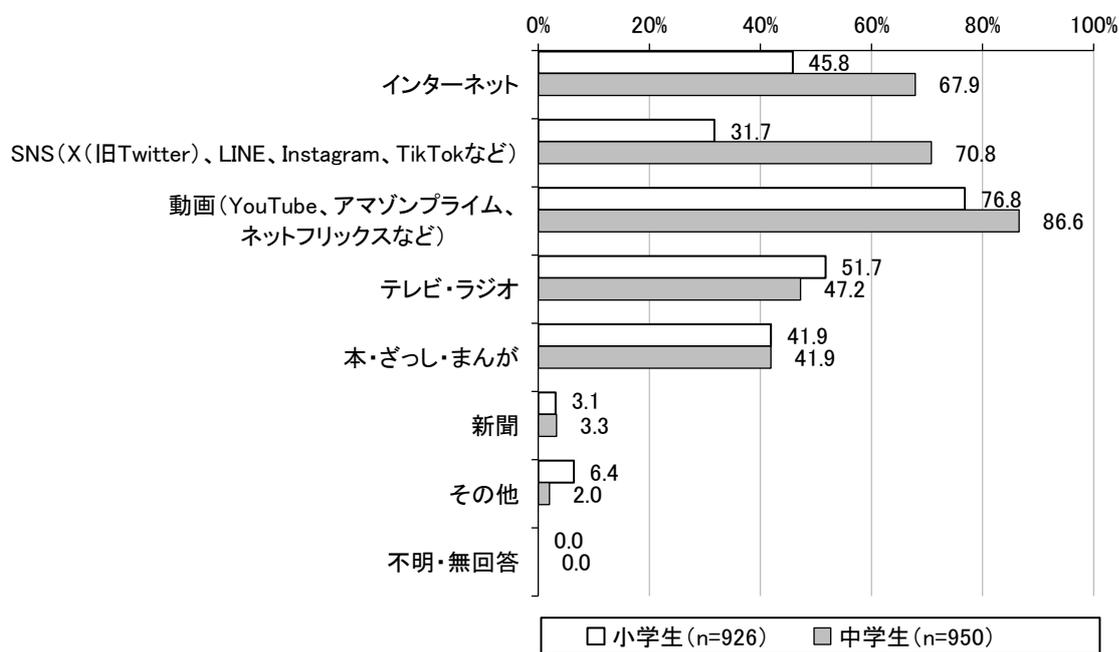
(3) メディアの利用について

よく利用しているメディアについて、小学生では、「動画（YouTube、アマゾンプライム、ネットフリックスなど）」が76.8%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」が51.7%、「インターネット」が45.8%となっています。

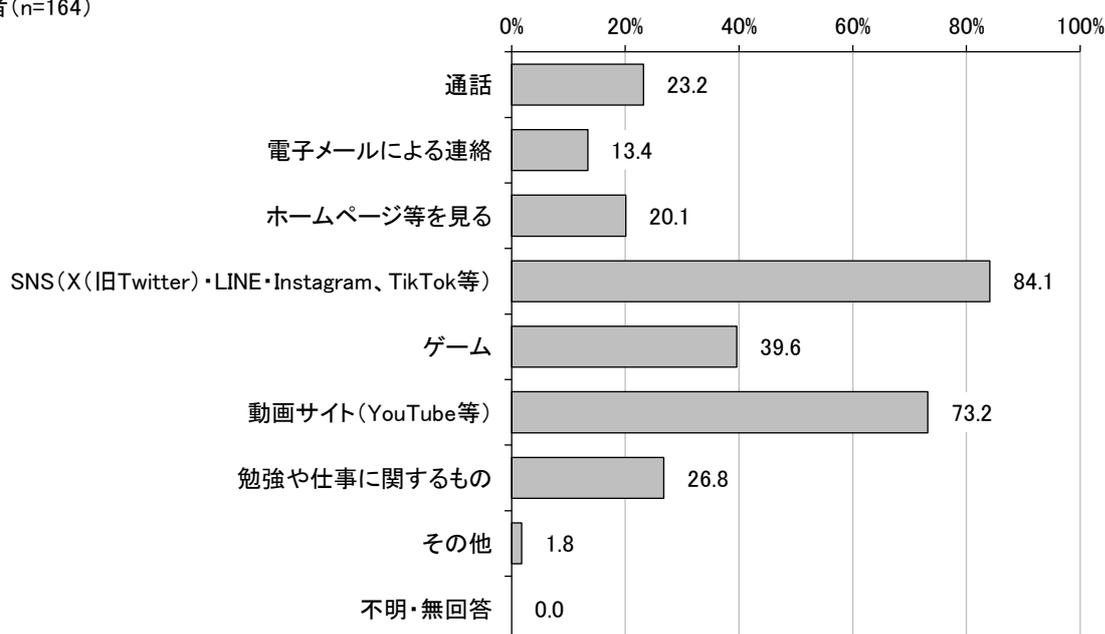
中学生では、「動画（YouTube、アマゾンプライム、ネットフリックスなど）」が86.6%と最も高く、次いで「SNS（X（旧 Twitter）、LINE、Instagram、TikTok など）」が70.8%、「インターネット」が67.9%となっています。

若者がスマートフォン等でよく利用するものでは、「SNS（X（旧 Twitter）・LINE・Instagram、TikTok 等）」が84.1%と最も高く、次いで「動画サイト（YouTube 等）」が73.2%、「ゲーム」が39.6%となっています。

【よく利用しているメディア 小学生、中学生問15、スマートフォン等でよく利用するもの 若者問9-1】



若者(n=164)



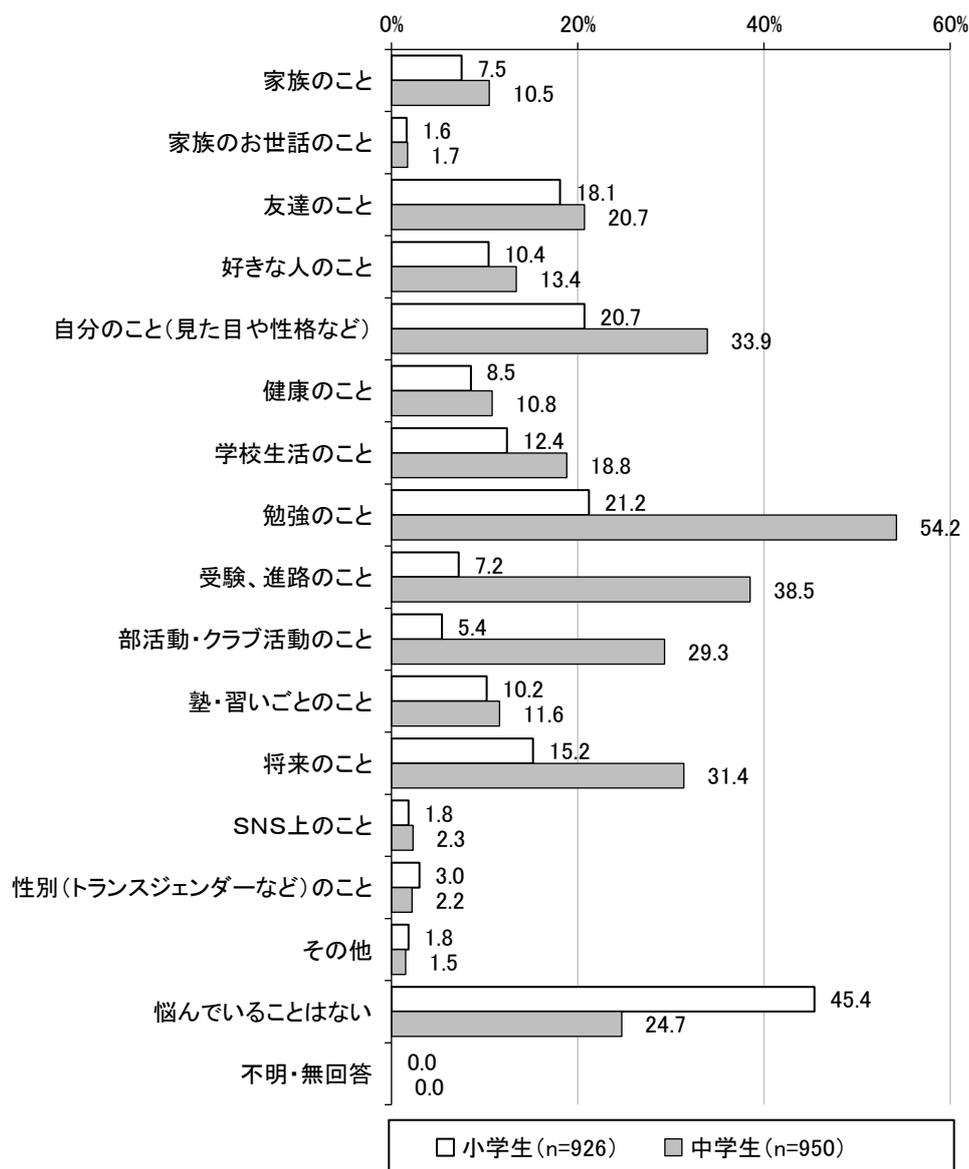
(4) 悩みや相談先について

今、悩んでいることについて、小学生では、「悩んでいることはない」が 45.4%と最も高く、次いで「勉強のこと」が 21.2%、「自分のこと(見た目や性格など)」が 20.7%となっています。

中学生では、「勉強のこと」が 54.2%と最も高く、次いで「受験、進路のこと」が 38.5%、「自分のこと(見た目や性格など)」が 33.9%となっています。

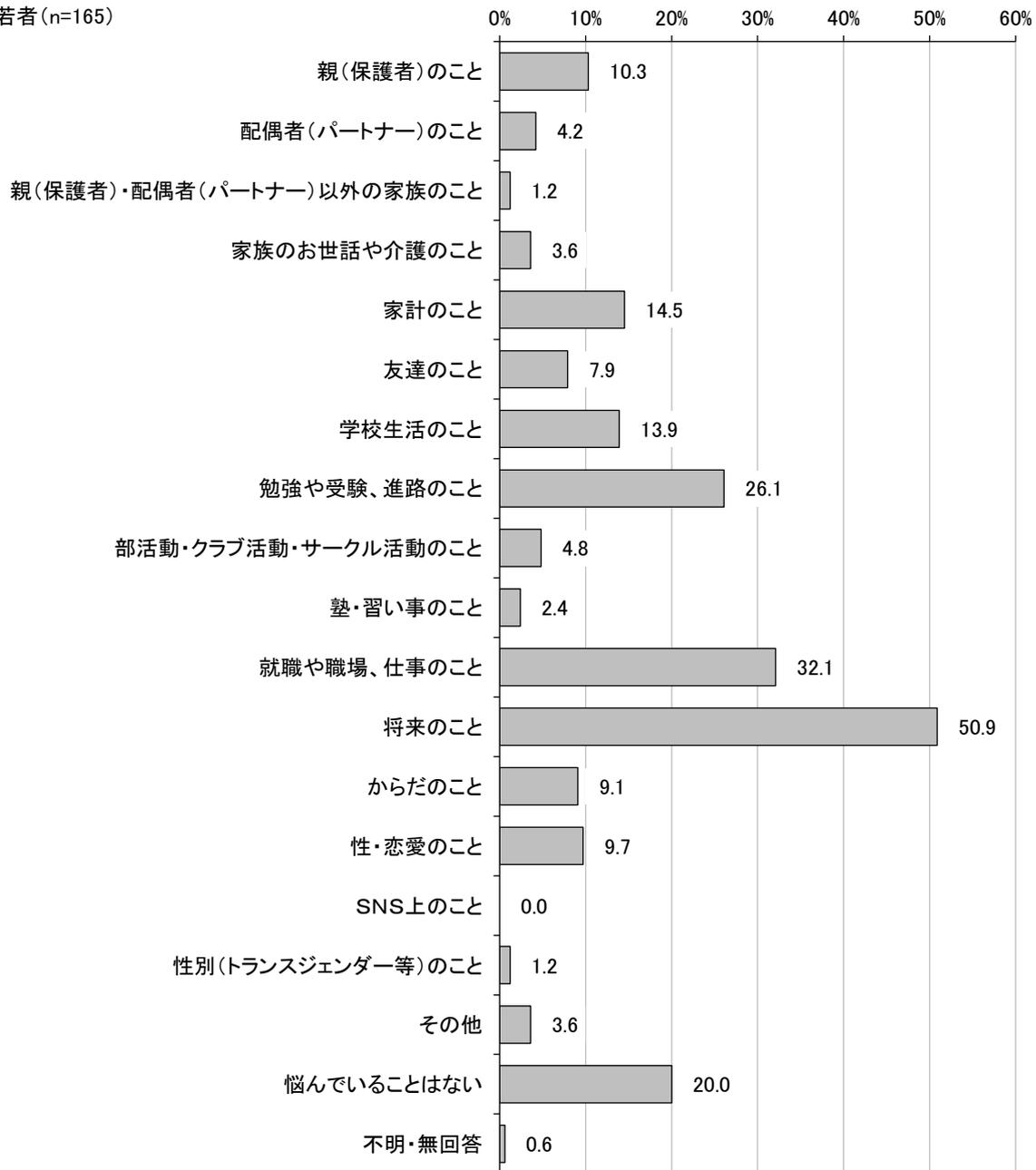
若者では、「将来のこと」が 50.9%と最も高く、次いで「就職や職場、仕事のこと」が 32.1%、「勉強や受験、進路のこと」が 26.1%となっています。

【今、悩んでいること 小学生、中学生問21】



【今、悩んでいること 若者問14】

若者(n=165)

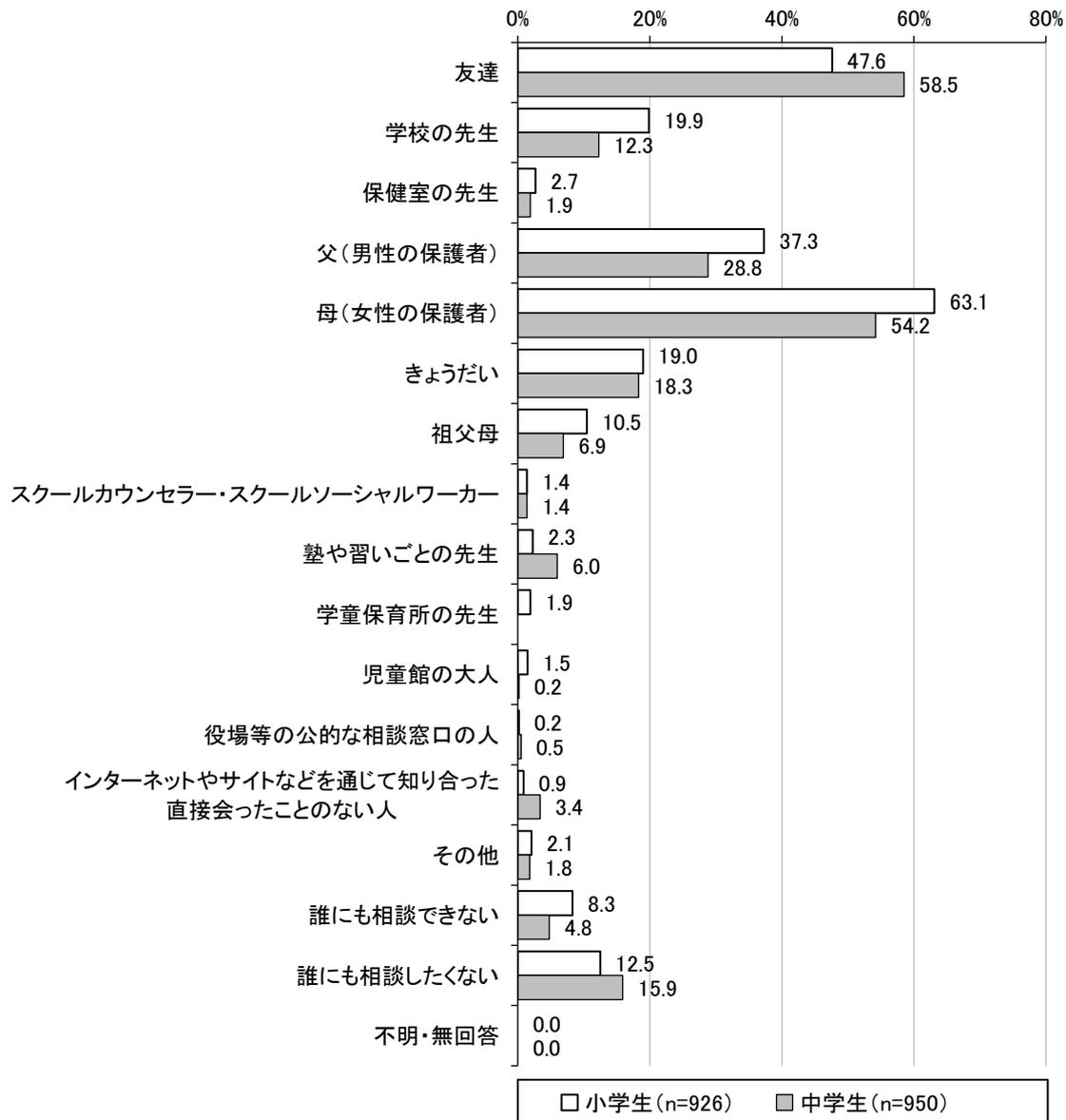


悩んでいるときや困っているときの相談相手について、小学生では、「母(女性の保護者)」が 63.1%と最も高く、次いで「友達」が 47.6%、「父(男性の保護者)」が 37.3%となっています。

中学生では、「友達」が 58.5%と最も高く、次いで「母(女性の保護者)」が 54.2%、「父(男性の保護者)」が 28.8%となっています。

若者では、「友達」が 61.8%と最も高く、次いで「母親」が 57.0%、「父親」が 21.2%となっています。

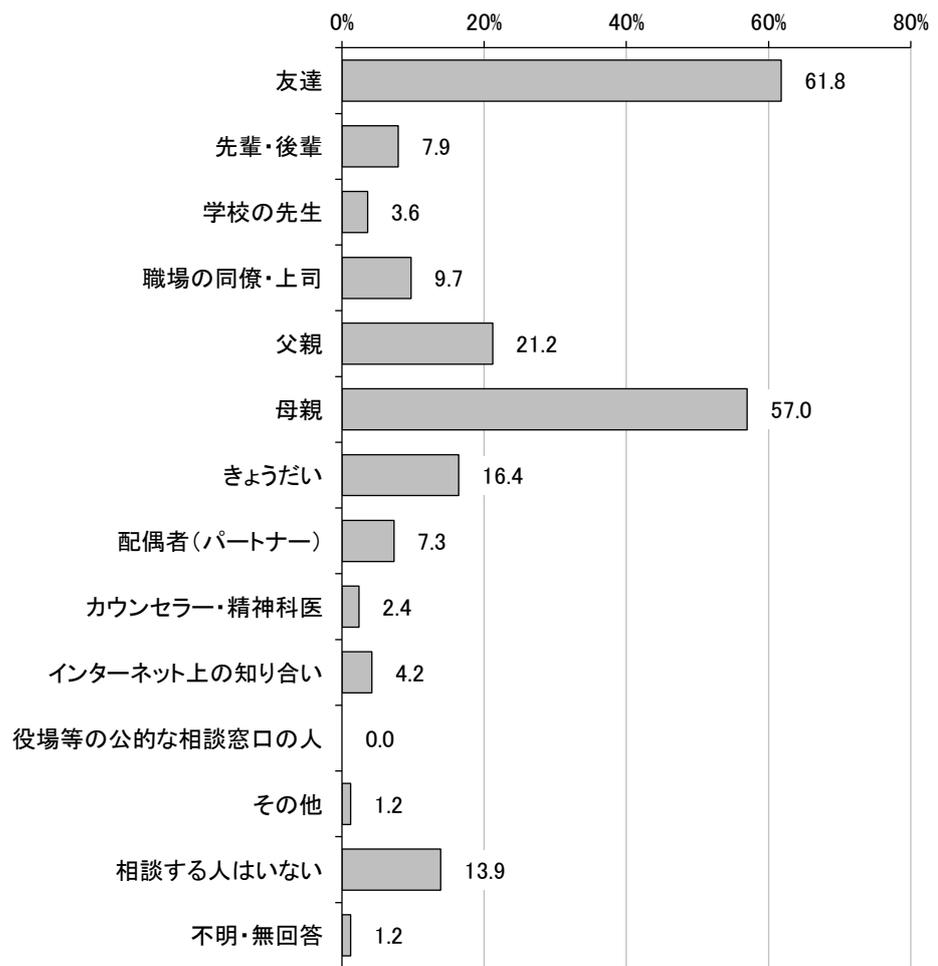
【悩んでいるときや困っているときの相談相手 小学生、中学生問22】



※「学童保育所の先生」は小学生のみの選択肢。

【悩んでいるときや困っているときの相談相手 若者問15】

若者(n=165)

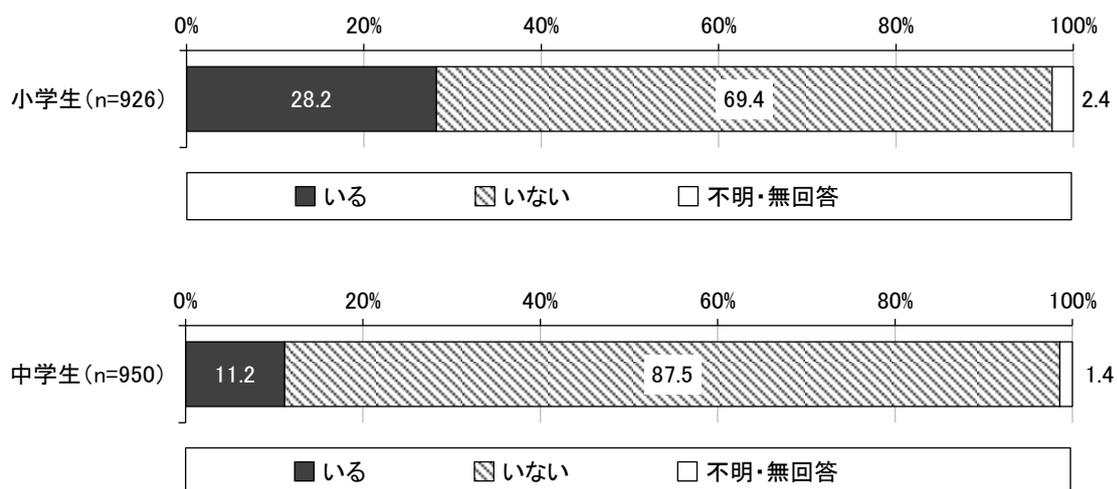


(5) 家族のお世話について

あなたが中心となって、お世話をしている家族の人はいるかについて、小学生では「いない」が 69.4%と、「いる」の 28.2%を上回っています。

中学生では、「いない」が 87.5%と、「いる」の 11.2%を上回っています。

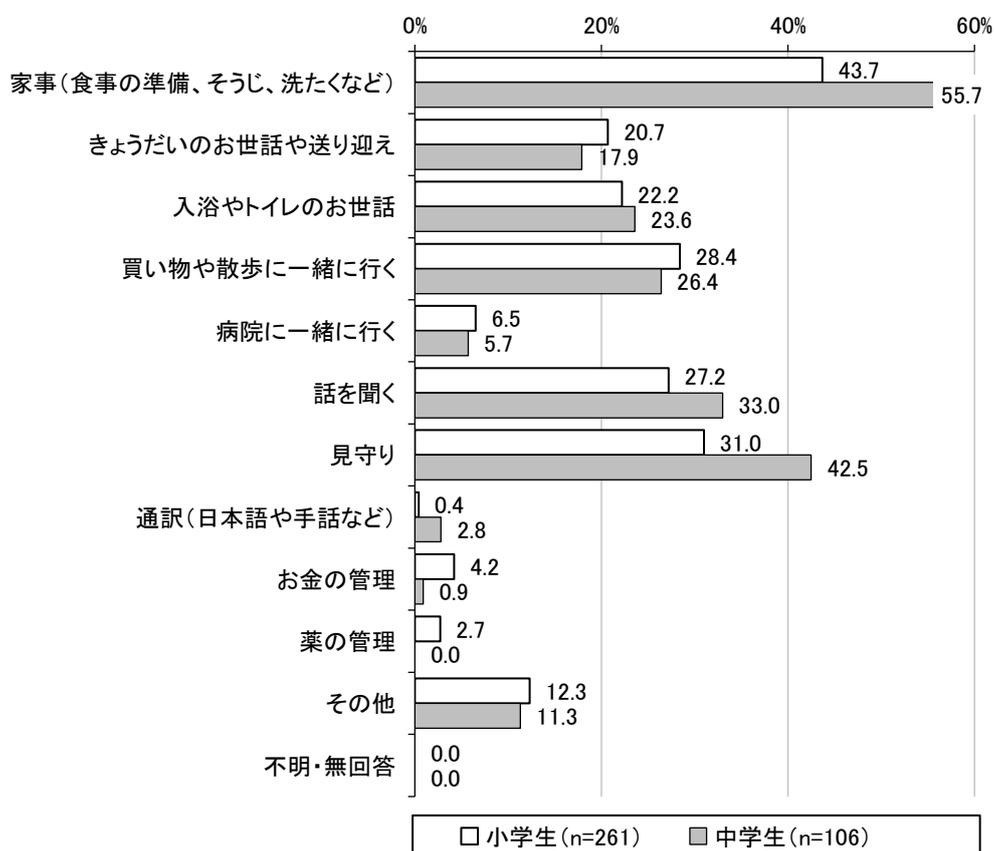
【お世話をしている家族の有無 小学生、中学生問25】



どのようなお世話をしているかについて、小学生では、「家事（食事の準備、そうじ、洗たくなど）」が43.7%と最も高く、次いで「見守り」が31.0%、「買い物や散歩と一緒にいく」が28.4%となっています。

中学生では、「家事（食事の準備、そうじ、洗たくなど）」が55.7%と最も高く、次いで「見守り」が42.5%、「話を聞く」が33.0%となっています。

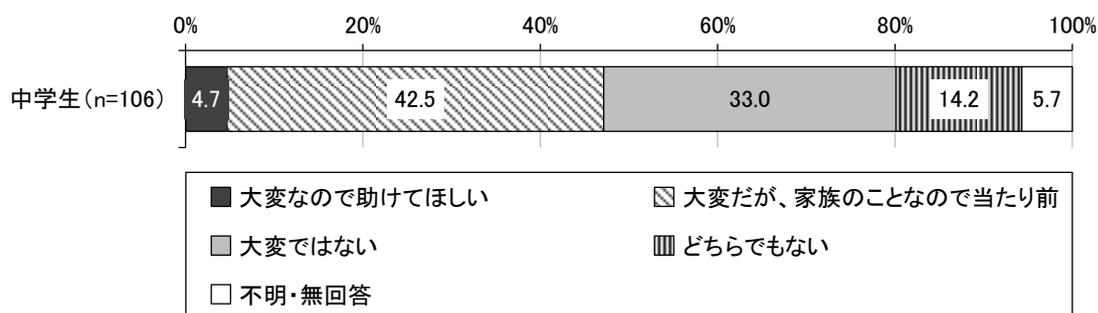
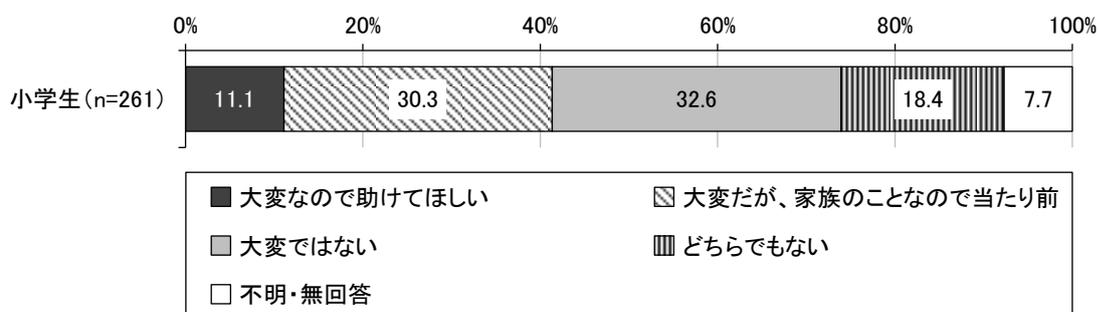
【お世話の内容 小学生、中学生問25-3】



お世話をすることをどう思っているかについて、小学生では、「大変ではない」が 32.6%と最も高く、次いで「大変だが、家族のことなので当たり前」が 30.3%、「どちらでもない」が 18.4%となっています。

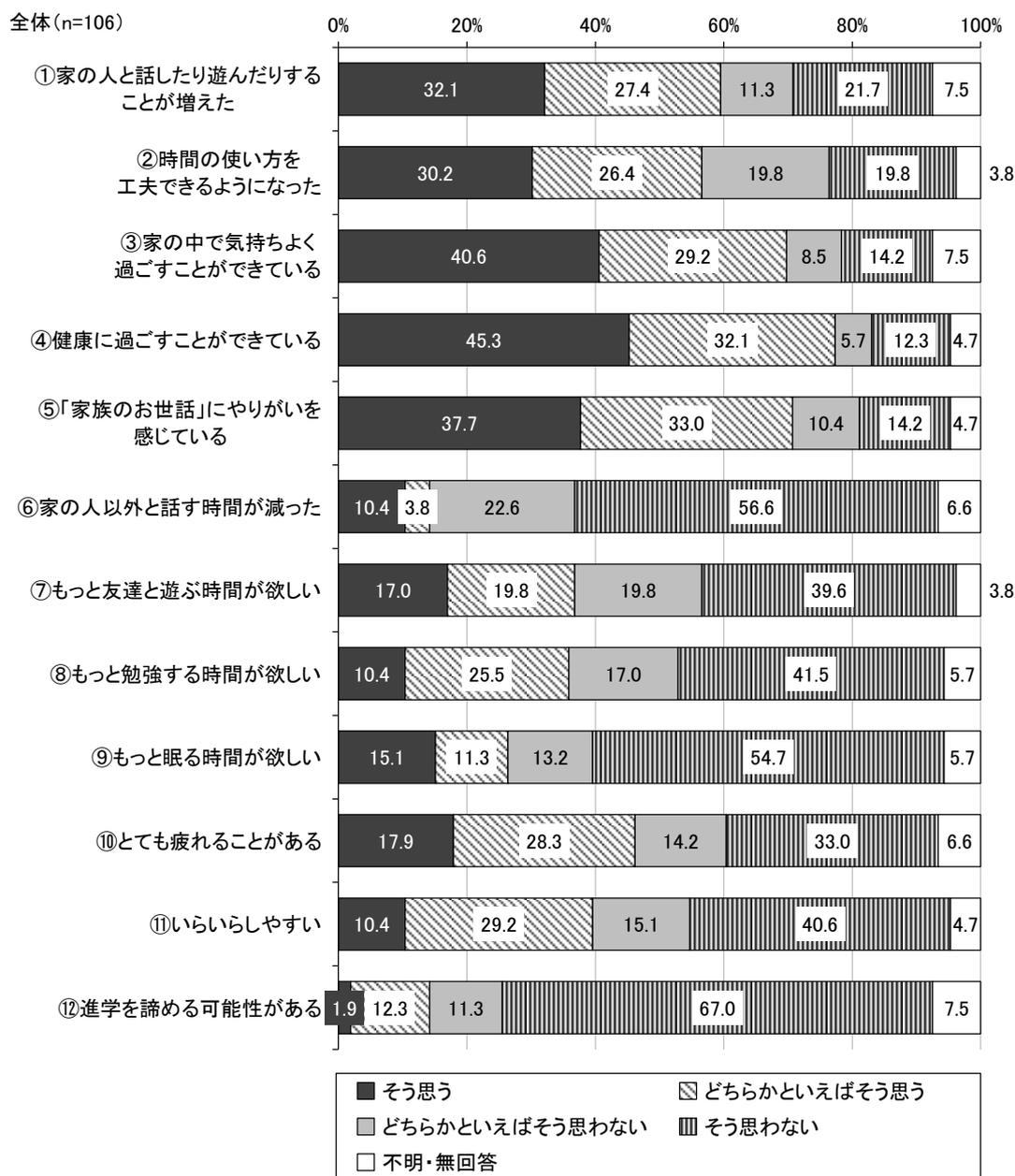
中学生では、「大変だが、家族のことなので当たり前」が 42.5%と最も高く、次いで「大変ではない」が 33.0%、「どちらでもない」が 14.2%となっています。

【お世話をすることをどう思っているか 小学生、中学生問25-6】



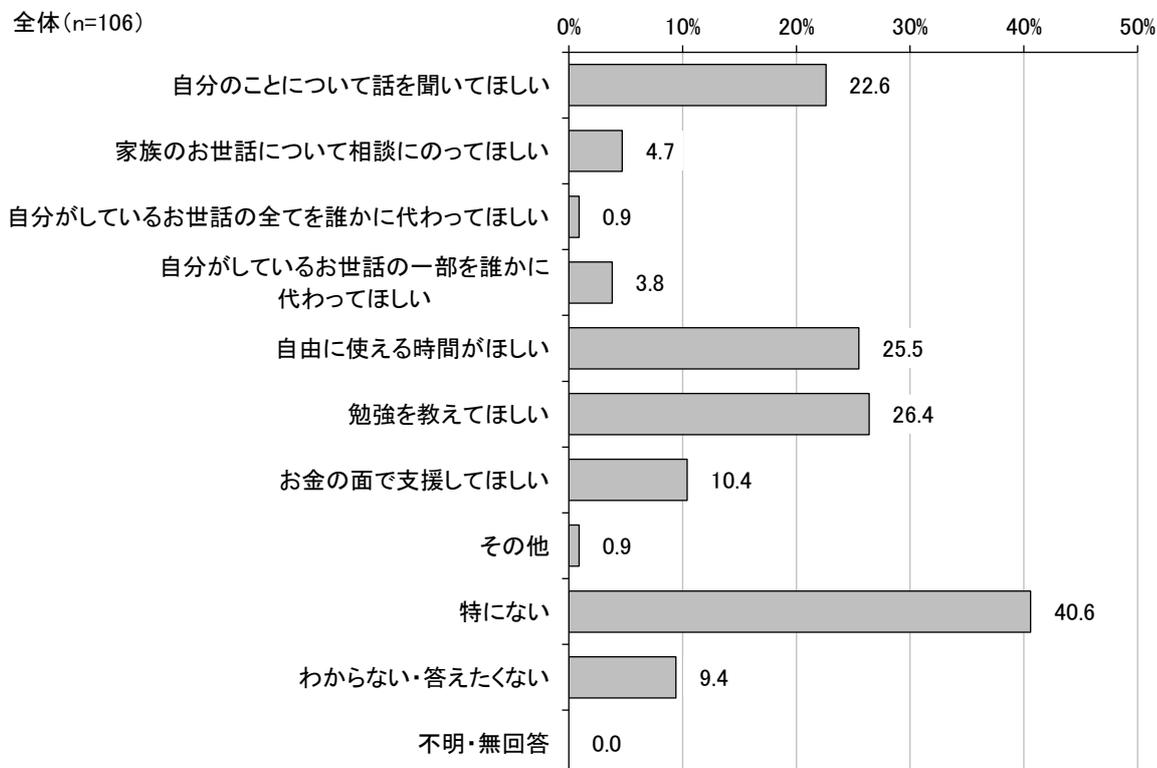
家族のお世話をしていることであてはまることについて、【①家の人と話したり遊んだりすることが増えた】【②時間の使い方を工夫できるようになった】【③家の中で気持ちよく過ごすことができている】【④健康に過ごすことができている】【⑤「家族のお世話」にやりがいを感じている】では「そう思う」、その他の項目では「そう思わない」が最も高くなっています。

【家族のお世話をしていることによって、あてはまること 中学生問25-7(問25でお世話をしている家族の人が「いる」と回答した方)】



学校や周りの人にしてもらいたいことについて、「特にない」が 40.6%と最も高く、次いで「勉強を教えてください」が 26.4%、「自由に使える時間がほしい」が 25.5%となっています。

【学校や周りの人にしてもらいたいこと 中学生問25-8 (問25でお世話をしている家族の人が「いる」と回答した方)】



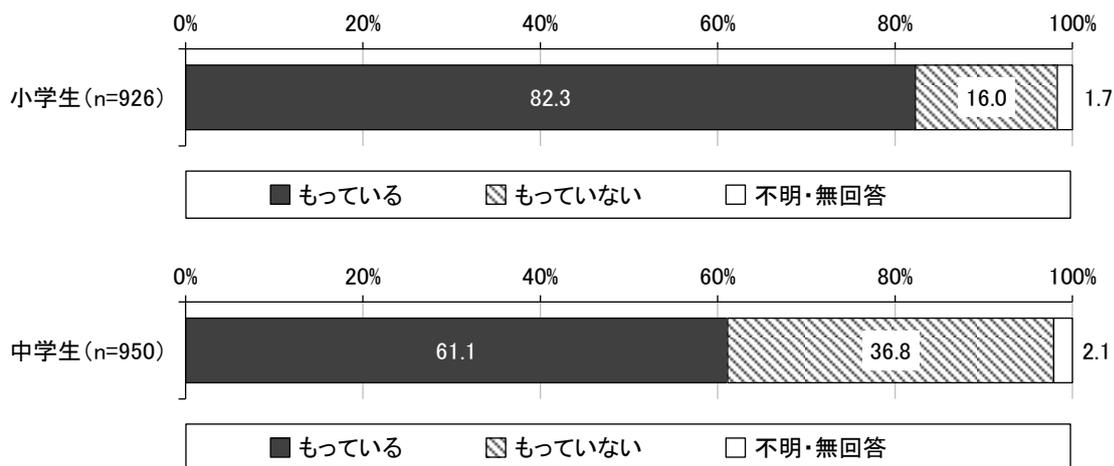
(6) 将来のことについて

将来の夢や目標をもっているかについて、小学生では「もっている」が 82.3%と、「もっていない」の 16.0%を上回っています。

中学生では、「もっている」が 61.1%と、「もっていない」の 36.8%を上回っています。

家族や周りに大切にされていると思う程度別にみると、小学生、中学生ともに、「大切にされている」と回答した人の方が、夢や目標を持っている割合が高くなっています。

【将来の夢や目標をもっているか 小学生、中学生問26】



【小学生、中学生問26 将来の夢や目標をもっていますか。×問20 家族や周りに大切にされていると思うか】

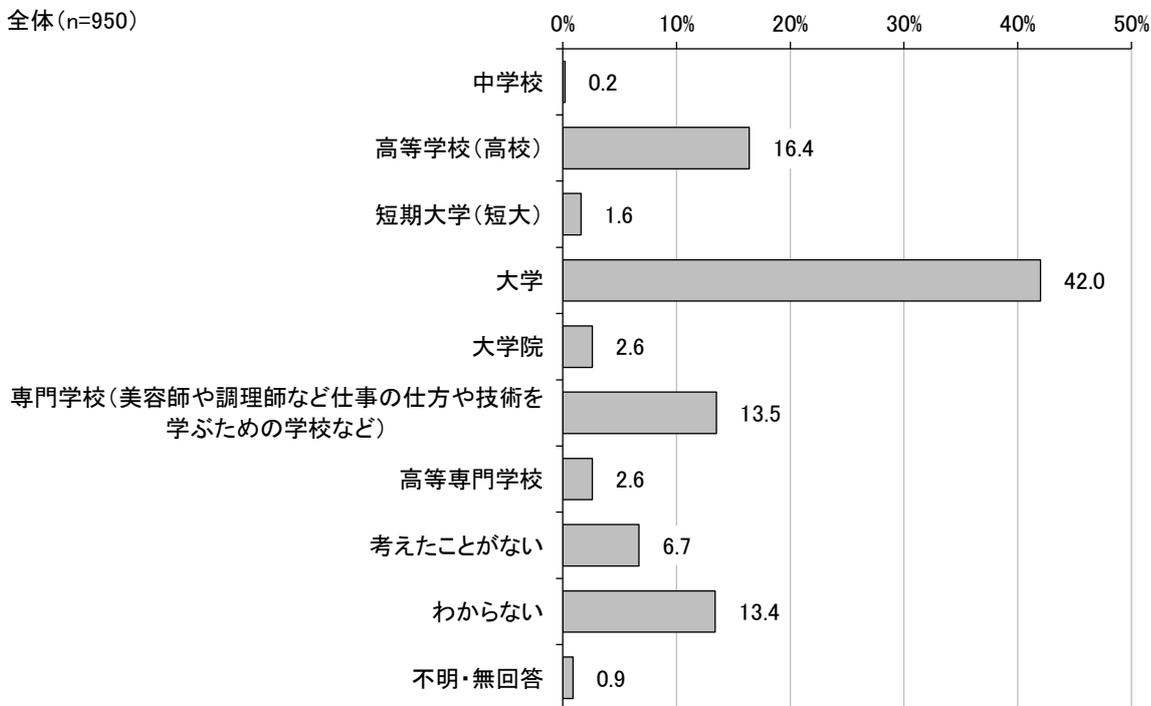
小学生		問26 将来の夢や目標をもっていますか。			
上段：度数 下段：%		合計	もっている	もっていない	不明・無回答
り問 いに2 る大 と切 思に家 うさ族 かれや て周	全体	926	762	148	16
		100.0	82.3	16.0	1.7
	大切にされている	759	636	111	12
		100.0	83.8	14.6	1.6
大切にされていない	25	14	10	1	
	100.0	56.0	40.0	4.0	
どちらでもない	114	89	23	2	
	100.0	78.1	20.2	1.8	

中学生		問26 将来の夢や目標をもっていますか。			
上段：度数 下段：%		合計	もっている	もっていない	不明・無回答
り問 いに2 る大 と切 思に家 うさ族 かれや て周	全体	950	580	350	20
		100.0	61.1	36.8	2.1
	大切にされている	754	476	265	13
		100.0	63.1	35.1	1.7
大切にされていない	23	9	12	2	
	100.0	39.1	52.2	8.7	
どちらでもない	149	79	69	1	
	100.0	53.0	46.3	0.7	

将来どの学校まで行きたいと思うかについて、「大学」が42.0%と最も高く、次いで「高等学校(高校)」が16.4%、「専門学校(美容師や調理師など仕事の仕方や技術を学ぶための学校など)」が13.5%となっています。

【将来どの学校まで行きたいと思うか 中学生問27】

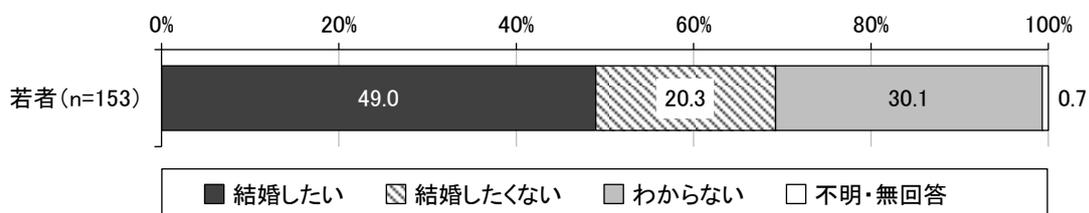
全体(n=950)



(7) 結婚について

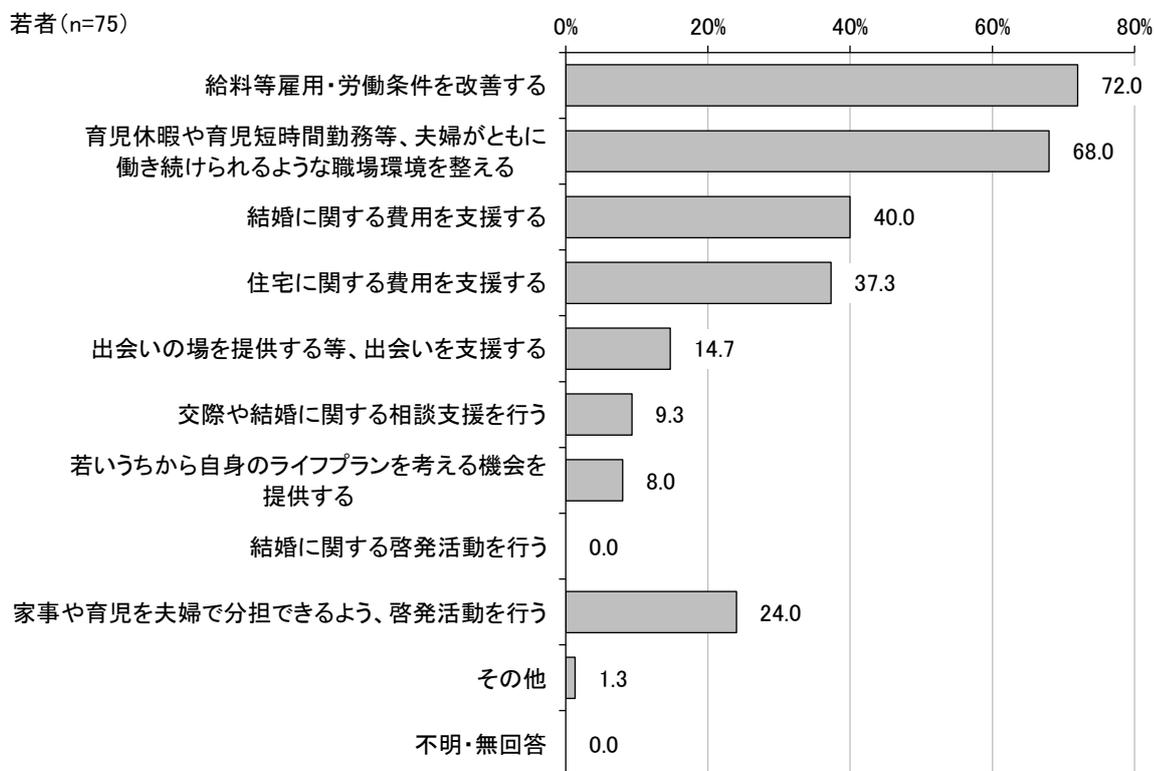
今後結婚をしたいと思うかについて、若者では、「結婚したい」が49.0%と最も高く、次いで「わからない」が30.1%、「結婚したくない」が20.3%となっています。

【今後結婚をしたいと思うか 若者問27-1】



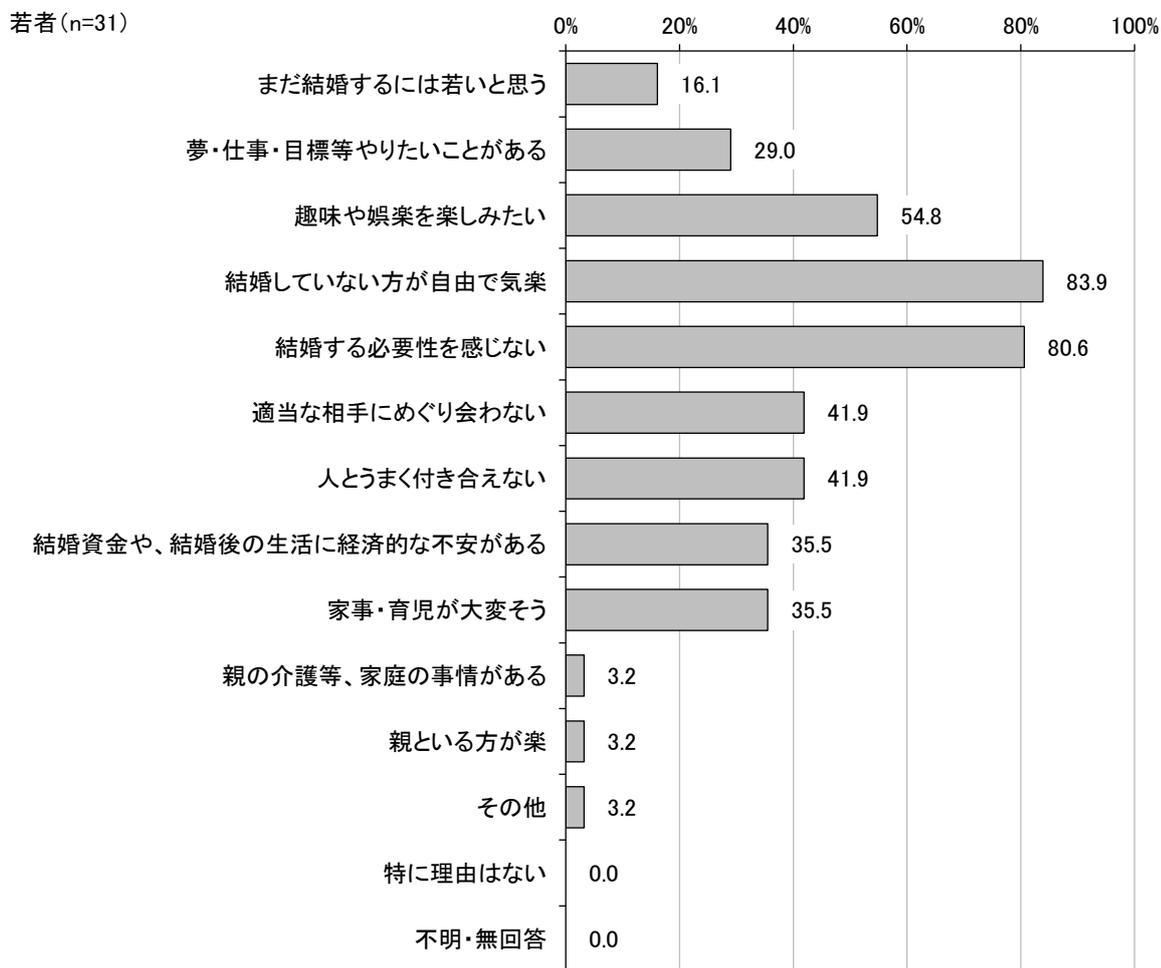
結婚を望む方が結婚できるような環境を整えるために、どのような支援が必要だと思うかについて、若者では、「給料等雇用・労働条件を改善する」が72.0%と最も高く、次いで「育児休暇や育児短時間勤務等、夫婦がともに働き続けられるような職場環境を整える」が68.0%、「結婚に関する費用を支援する」が40.0%となっています。

【結婚に必要な支援 若者問27-3】



結婚したくないと思う理由について、若者では、「結婚していない方が自由で気楽」が 83.9%と最も高く、次いで「結婚する必要性を感じない」が 80.6%、「趣味や娯楽を楽しみたい」が 54.8%となっています。

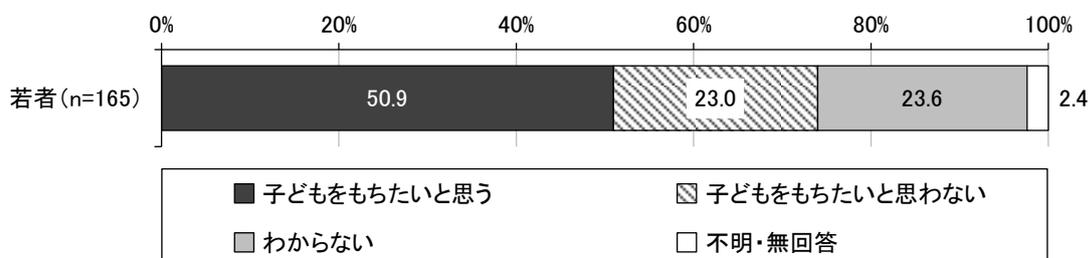
【結婚したくないと思う理由 若者問27-4】



(8) 子どもを持つことについて

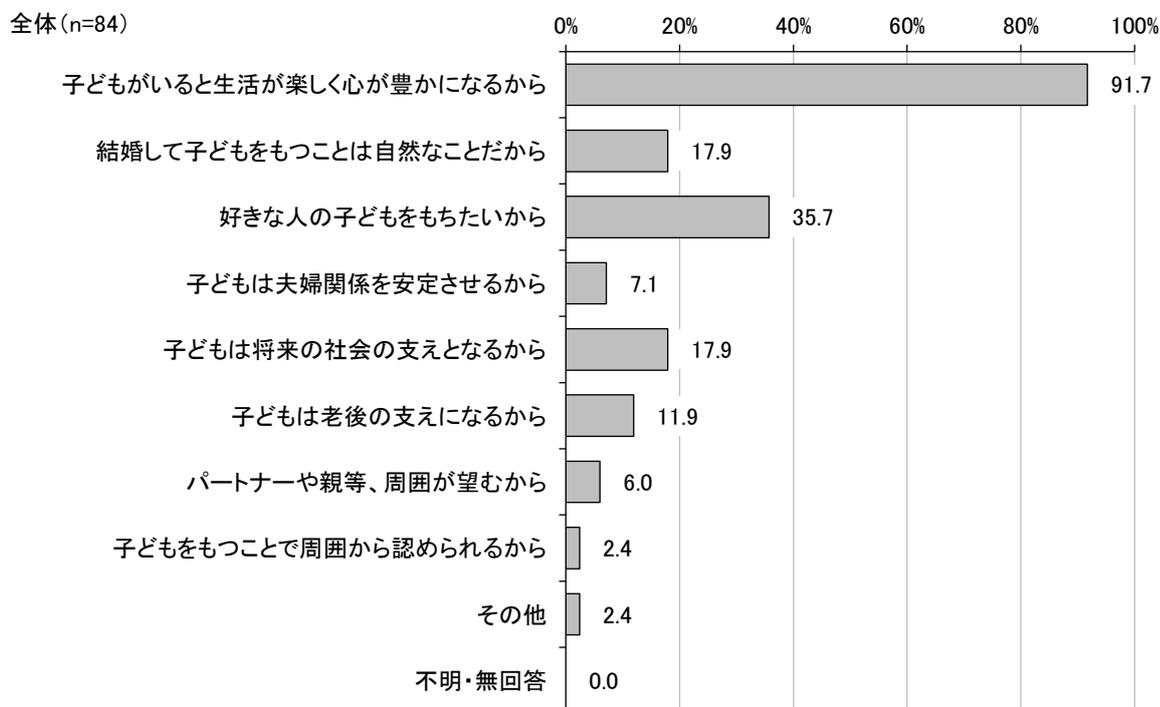
子どもを持つことについて、若者では、「子どもをもちたいと思う」が50.9%と最も高く、次いで「わからない」が23.6%、「子どもをもちたいと思わない」が23.0%となっています。

【子どもを持つことについて 若者問28】



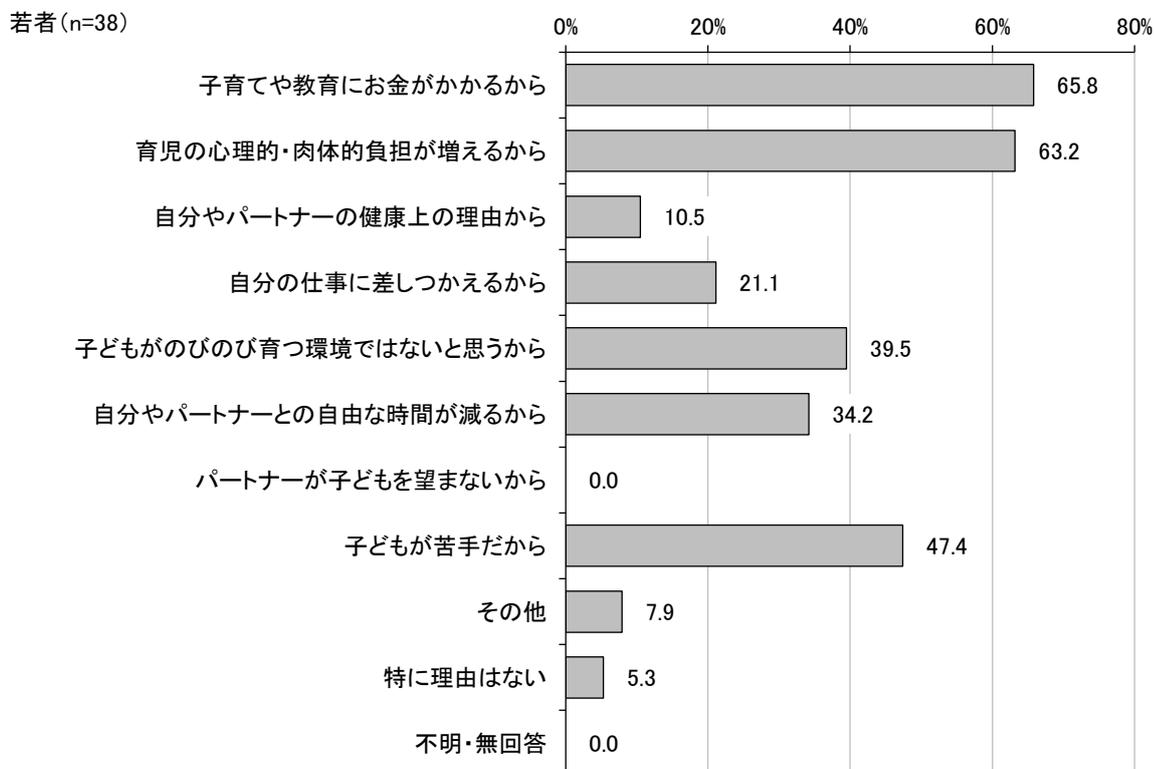
子どもを持ちたいと思う理由について、若者では、「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」が91.7%と最も高く、次いで「好きな人の子どもをもちたいから」が35.7%、「結婚して子どもをもつことは自然なことだから」「子どもは将来の社会の支えとなるから」が17.9%となっています。

【子どもを持ちたいと思う理由 若者問28-1】



子どもを持ちたいと思わない理由について、若者では、「子育てや教育にお金がかかるから」が 65.8%と最も高く、次いで「育児の心理的・肉体的負担が増えるから」が 63.2%、「子どもが苦手だから」が 47.4%となっています。

【子どもを持ちたいと思わない理由 若者問28-2】

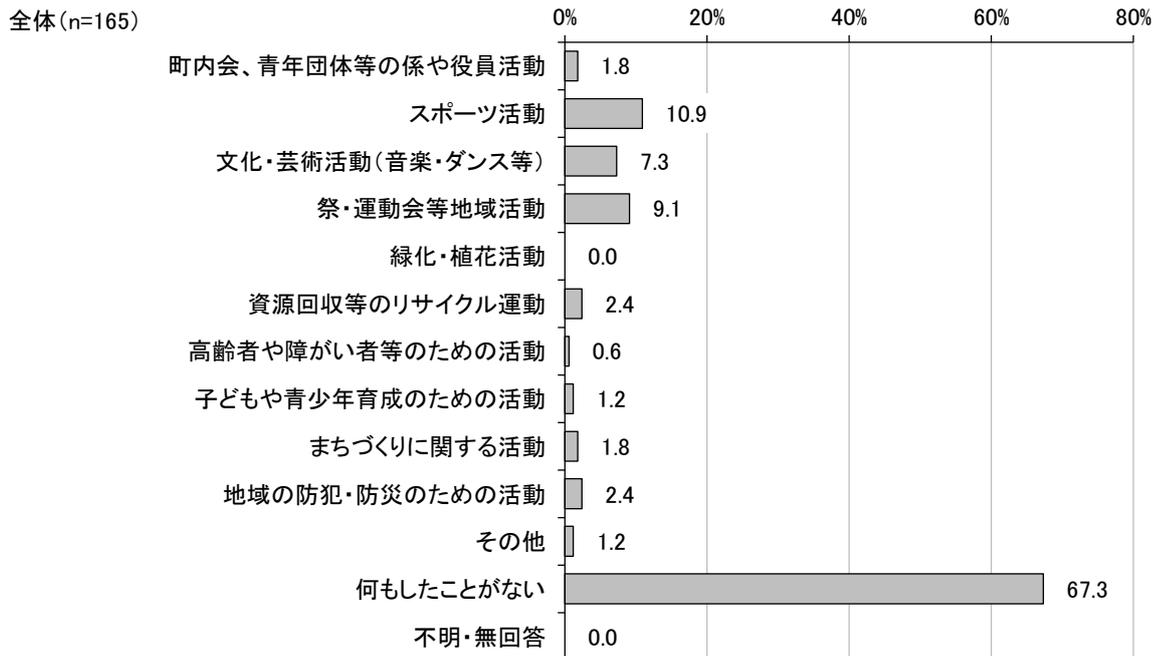


(9) 地域とのつながりについて

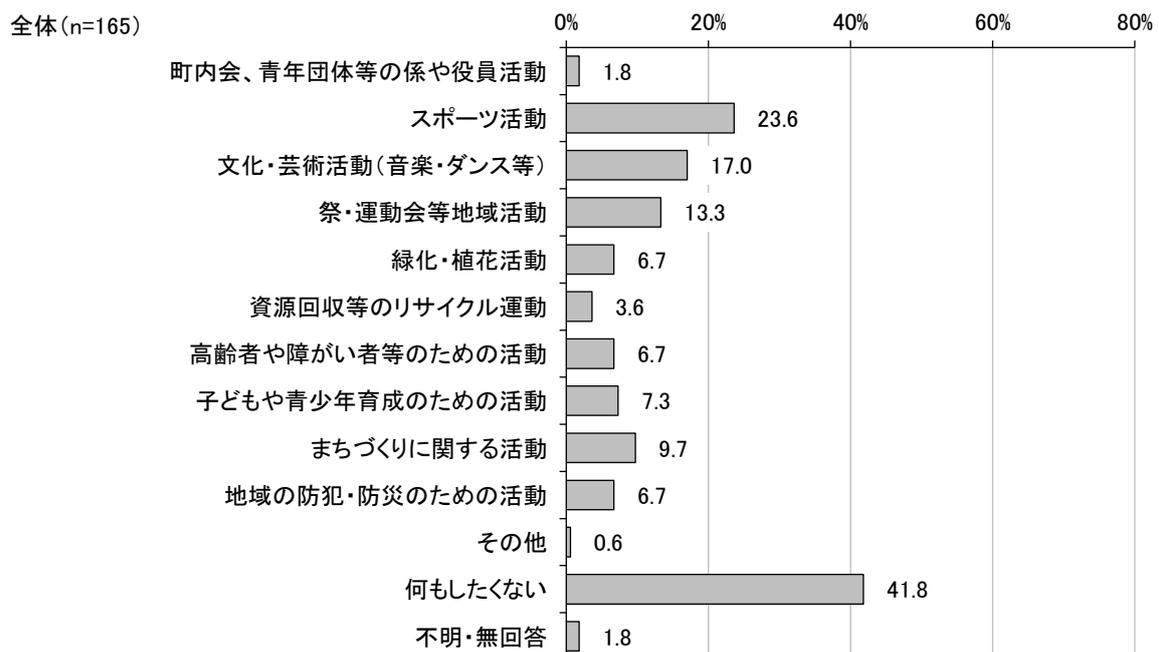
学校や仕事以外の活動への参加について、「何もしたことがない」が 67.3%と最も高く、次いで「スポーツ活動」が 10.9%、「祭・運動会等地域活動」が 9.1%となっています。

今後、参加したい活動について、「何もしたくない」が 41.8%と最も高く、次いで「スポーツ活動」が 23.6%、「文化・芸術活動(音楽・ダンス等)」が 17.0%となっています。

【学校や仕事以外の活動に参加しているか。現在参加している活動、この1年以内に参加した活動 若者問29】

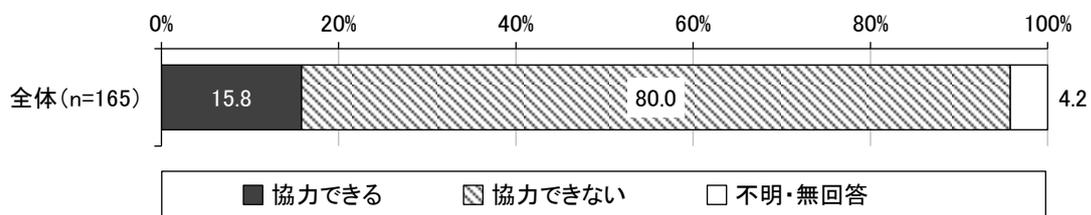


【今後、参加したい活動 若者問29-2】



よりよい町づくりについての意見交換やヒアリングへの協力について、「協力できない」が 80.0%と、「協力できる」の 15.8%を上回っています。

【将来を担う子ども・若者の視点での、よりよい町づくりについての意見交換やヒアリングへの協力
若者問33】



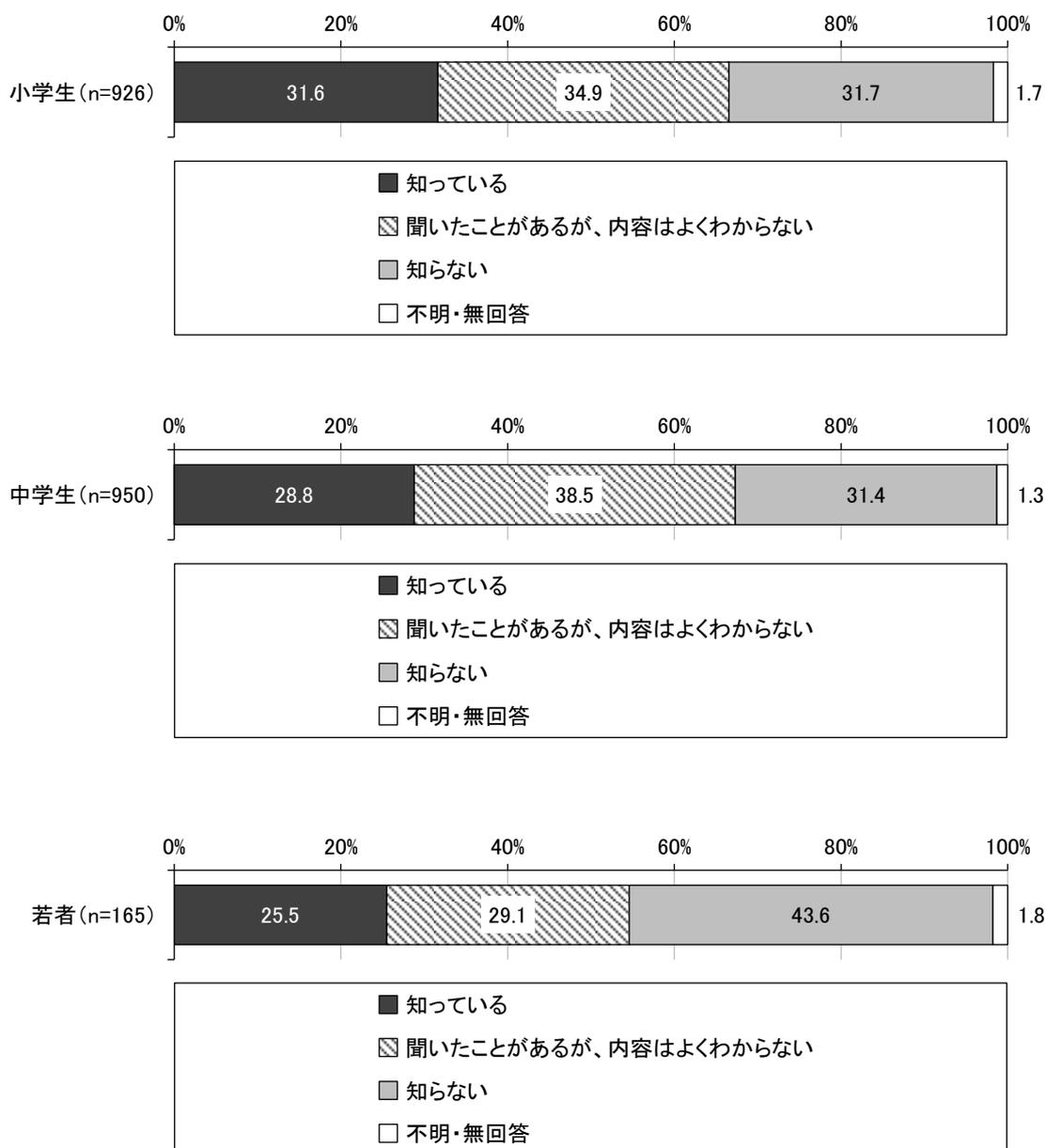
(10) こどもが意見を表明する権利について

「子どもの権利」を知っているかについて、小学生では、「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が34.9%と最も高く、次いで「知らない」が31.7%、「知っている」が31.6%となっています。

中学生では、「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が38.5%と最も高く、次いで「知らない」が31.4%、「知っている」が28.8%となっています。

若者では、「知らない」が43.6%と最も高く、次いで「聞いたことがあるが、内容はよくわからない」が29.1%、「知っている」が25.5%となっています。

【子どもの権利の認知度 小学生、中学生、若者問30】

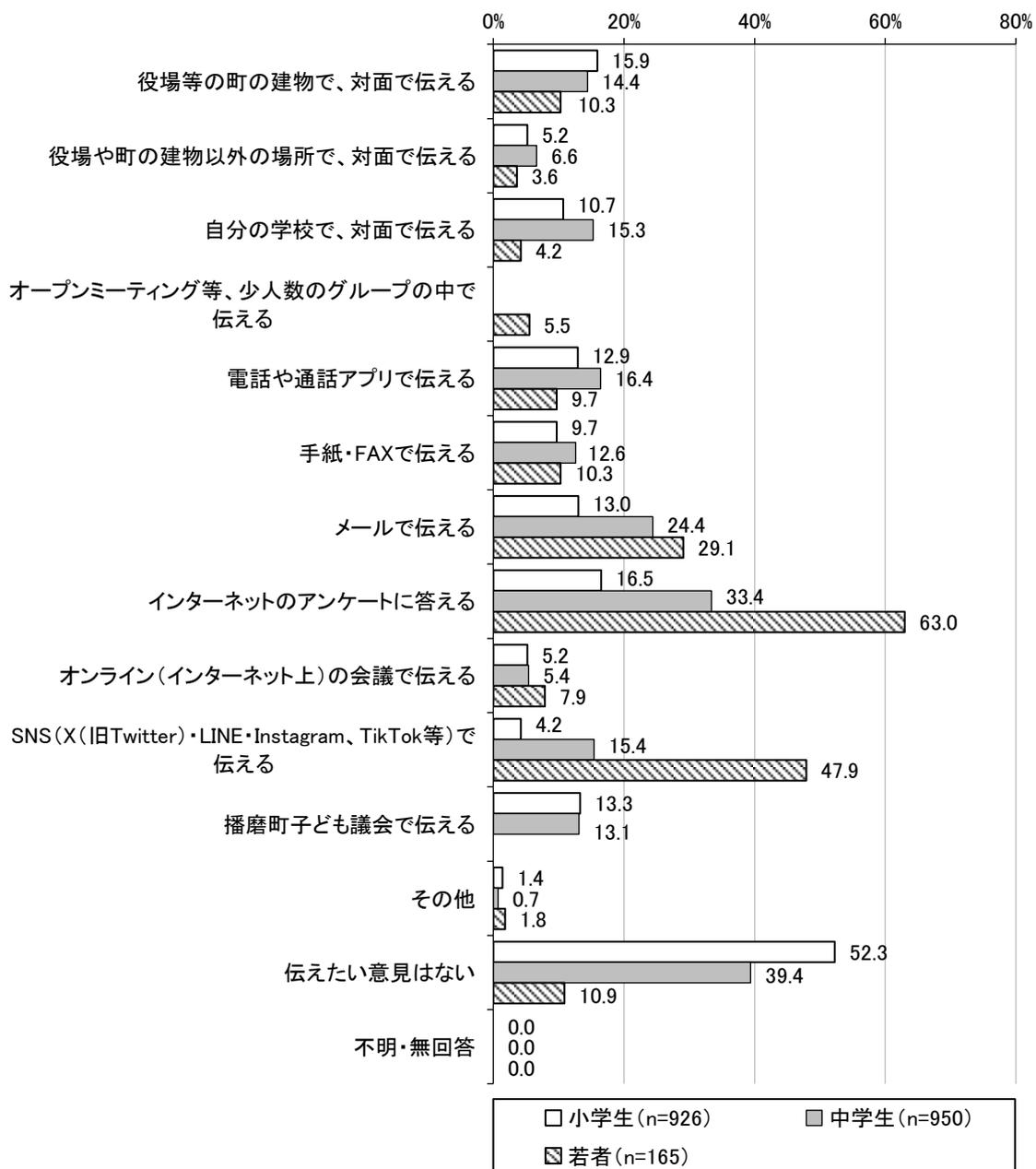


どんな方法や手段があれば、播磨町（役場）に対して、自分の意見を伝えやすいと思うかについて、小学生では、「伝えたい意見はない」が 52.3%と最も高く、次いで「インターネットのアンケートに答える」が 16.5%、「役場等の町の建物で、対面で伝える」が 15.9%となっています。

中学生では、「伝えたい意見はない」が 39.4%と最も高く、次いで「インターネットのアンケートに答える」が 33.4%、「メールで伝える」が 24.4%となっています。

若者では、「インターネットのアンケートに答える」が 63.0%と最も高く、次いで「SNS(X(旧 Twitter)・LINE・Instagram、TikTok 等)で伝える」が 47.9%、「メールで伝える」が 29.1%となっています。

【意見を伝えやすい方法 小学生、中学生、若者問31】



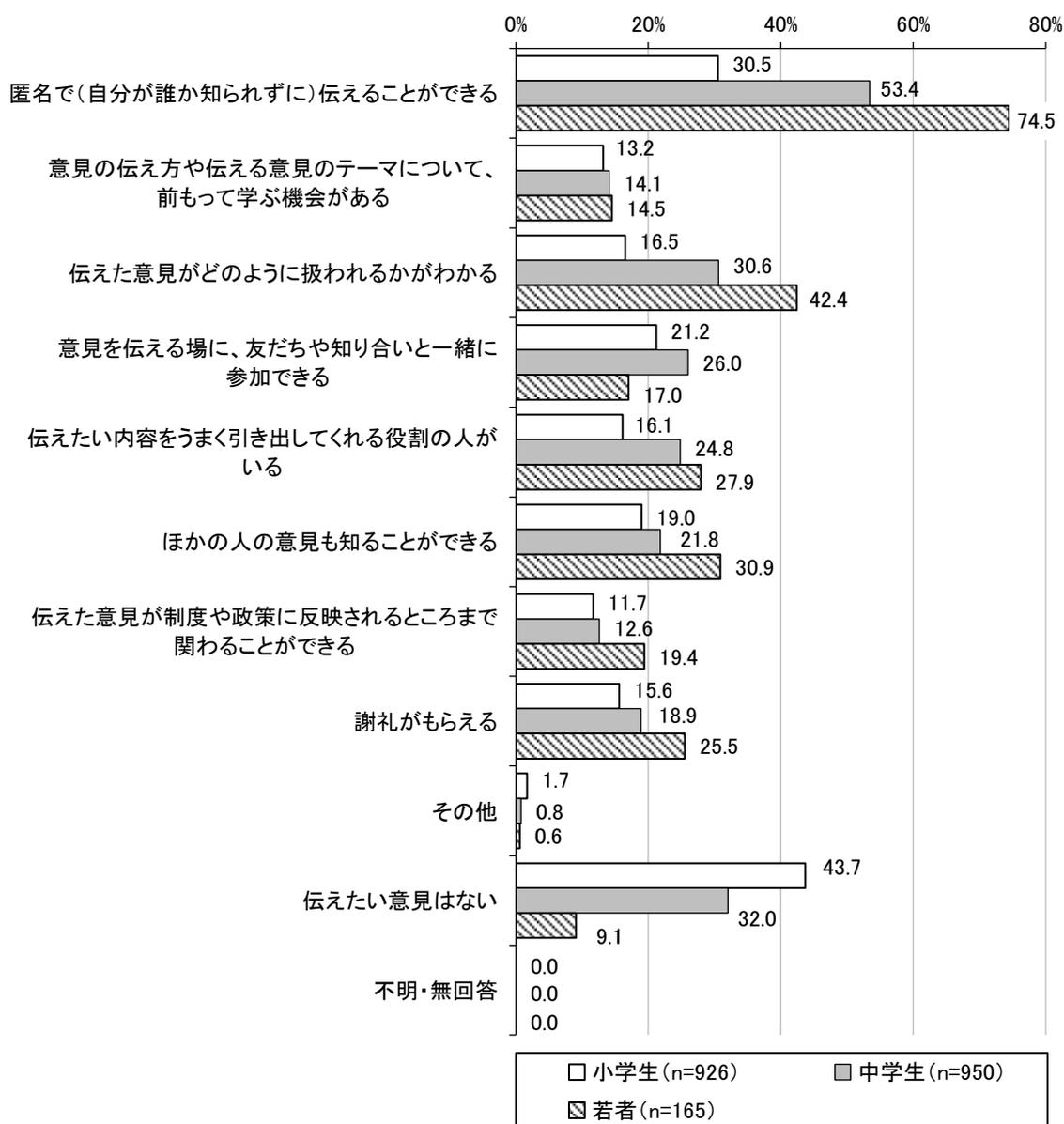
※「オープンミーティング等、少人数のグループの中で伝える」は若者、「播磨町子ども議会で伝える」は小学生、中学生のみの選択肢。

どんな工夫やルールがあれば、播磨町（役場）に対して、自分の意見を伝えやすいと思うかについて、小学生では、「伝えたい意見はない」が 43.7%と最も高く、次いで「匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる」が 30.5%、「意見を伝える場に、友だちや知り合いと一緒に参加できる」が 21.2%となっています。

中学生では、「匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる」が 53.4%と最も高く、次いで「伝えたい意見はない」が 32.0%、「伝えた意見がどのように扱われるかがわかる」が 30.6%となっています。

若者では、「匿名で（自分が誰か知られずに）伝えることができる」が 74.5%と最も高く、次いで「伝えた意見がどのように扱われるかがわかる」が 42.4%、「ほかの人の意見も知ることができる」が 30.9%となっています。

【意見を伝えやすい工夫やルール 小学生、中学生、若者問32】



5 自由回答

(1) 小学生調査

	分類	件数
体験機会、公園	イベントの実施	81件
	公園の増設、整備、ルール見直し等	80件
	室内での遊び場	15件
施設	スポーツ施設（野球、プール、サッカー、スケート、バスケット等）	47件
	遊園地、テーマパーク	35件
	ゲームセンター	29件
	ショッピングモール等の人気店の誘致	26件
	動物園、アニマルカフェ等動物とのふれあい	20件
	キャラクターショップ	10件
	水族館	9件
	飲食店	9件
	お菓子、駄菓子屋	9件
	映画館	8件
	ホテル	4件
	博物館	3件
居場所	無料施設（自販機、店、勉強場所、相談場所等）	24件
	こども食堂	2件
いじめ、不登校、学校	不登校支援	34件
	学校行事、交流支援、施設整備等	10件
	差別、いじめのない社会	9件
	ゴミ拾いボランティア、ポイ捨て防止等	20件
生活環境	住みやすさ	12件
	自然保護、整備	8件
安全・安心	避難場所の確保、避難訓練	6件
	信号の設置	5件
	犯罪のない社会	4件
感じていること	平和、幸せ	19件
	やさしさ、親切、思いやり	7件
	自由、個性の尊重	4件
その他		85件

(2) 中学生調査

分類		件数
体験機会、公園	イベント	46件
	公園	46件
施設	スポーツ施設（バスケット、サッカー等）	43件
	ショッピングモール	40件
	ゲームセンター	22件
	遊園地、テーマパーク	21件
	屋内施設（体育館、コンサートホール等）	20件
	飲食店	20件
	本屋、図書館	20件
	映画館	9件
	カラオケ	5件
学校、勉強	学校（増設、校則見直し、無償化等）	26件
	塾、勉強場所	17件
居場所		27件
生活環境	ゴミ、ポイ捨て対策	6件
	自然保護	5件
安全・安心	安全対策（街灯、老朽化施設や道の整備、避難場所、警報等）	37件
	経済支援	20件
特産品、名所		8件
その他		27件

(3) こども・若者調査

分類	件数
若者が住み続けられる環境づくり	4件
意識調査に対する意見	4件
経済的支援	2件
子育て支援の充実	2件
交通機関の不便さ	1件
お金に関する教育の重要性	1件
自治会、PTAの廃止	1件
その他	3件

(4) 就学前児童保護者調査

分類		件数
経済支援（給食費、保育料の無償化、給付金等）		103 件
子育て支援	子育て支援	59 件
	産後サポート	18 件
	育児システム（おむつ定期便等）	12 件
	情報提供	17 件
教育・保育施設	保育施設（預かり時間、質の向上等）	93 件
	保育園増設、待機児童対策	35 件
	小児科、医療施設の増設	21 件
	幼稚園支援（保育時間、イベント、給食の見直し等）	20 件
	乳幼児預け先（時間延長、条件見直し等）	18 件
施設、イベント	公園（増設、整備等）	47 件
	施設（遊び場、支援センターの増設、見直し等）	34 件
	子育てイベント	23 件
安全対策（道路整備、街灯・信号設置等）		33 件
その他		20 件

(5) 小学生保護者

分類		件数
経済的支援	給食費無償化	38 件
	経済支援	36 件
	習い事助成	16 件
	制服の支給、助成	9 件
	高校無償化	7 件
	保育料無償化	5 件
子育て支援	乳幼児預け先	19 件
	情報提供	14 件
	明石市のような支援	11 件
施設、イベント	公園の増設、整備等	56 件
	イベント（学校行事の増加、見直し、地域行事等）	25 件
	医療機関の充実	19 件
	スポーツ施設（市民プール、ボール遊び、スポーツクラブ等）	8 件
こどもの居場所	こどもの居場所	29 件
	学童保育（質の向上、条件、利用枠等）	27 件
	こども食堂	10 件
安全・安心、交通	安全対策（信号、カメラ、街灯、道路整備、パトロール等）	58 件
	自転車通学の許可、安全確保	4 件
	バス停の設置	4 件
その他		36 件

(6) 中学生保護者調査

	分類	件数
経済的支援	経済的支援	19件
	給食費無償化	19件
	勉強場所、学習支援	10件
	高校・大学の学費支援	6件
	学用品の助成、中古品利用	5件
	扶養の見直し	5件
	物価高対策	4件
教育	塾、習い事の支援（補助金、送迎サービス等）	6件
	部活動の改革	5件
	教育の充実	4件
	不登校支援	4件
	制服用品の改善	3件
	留学支援	2件
こどもの居場所、施設	施設の充実（スポーツ、音楽等）	5件
	こどもの健康、医療機関の充実	5件
	こども食堂の実現	3件
	こども向けイベントの実施	3件
	図書館の拡充	3件
	学童の充実	2件
安全・安心、交通	安心安全な公園	13件
	安全対策（見守りカメラの設置、警報の見直し等）	7件
	通学路の安全確保	7件
	自転車通学の許可	3件
	コミュニティバスの設置	2件
	相談場所（保護者、こども）	7件
その他		21件

II 関係団体ヒアリング調査

1 調査概要

本調査は、子育てに関する取り組みを実施するまたは支援する団体などを対象に、播磨町のこども・若者、子育て家庭を取り巻く課題や取り組み状況等についてお伺いし、令和7年度より開始される「播磨町こども計画」策定の基礎資料とするとともに、今後の町としての支援・施策に役立てることを目的として行いました。

令和6年7月に調査票を送付・回収したうえで、7月下旬～8月上旬に11の団体に直接の聞き取り調査を実施しました。ヒアリングシートについては、22の団体から回答を得ました。

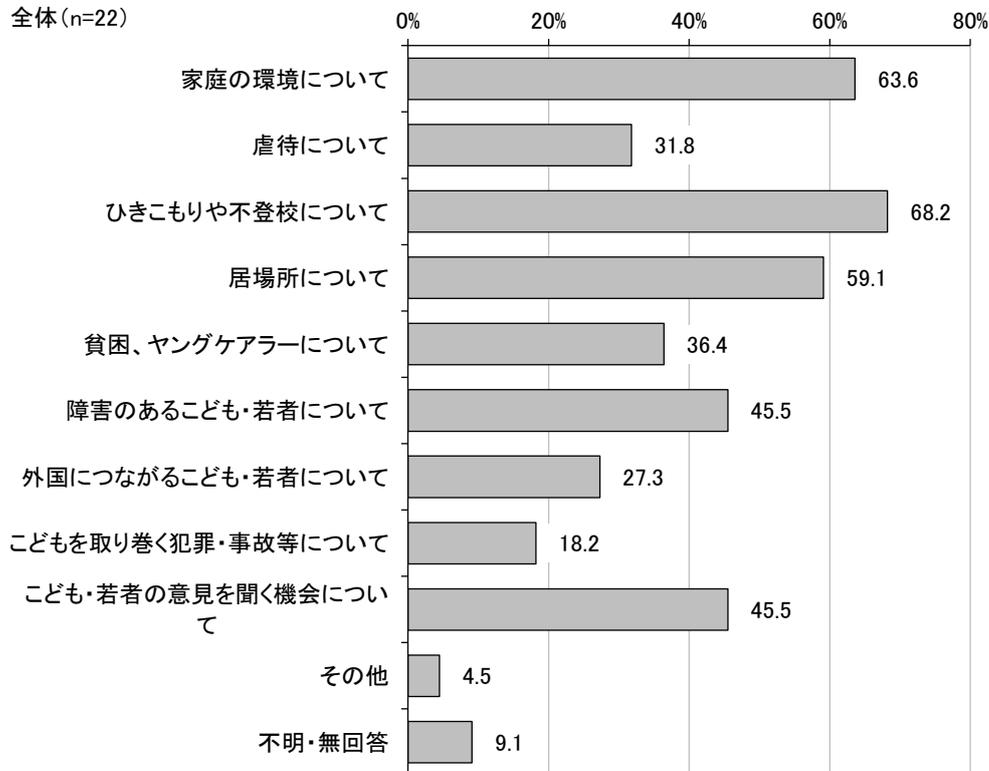
■対象団体

福祉・教育関係機関	西部コミュニティ委員会、野添コミュニティ委員会、南部コミュニティ委員会、スポーツクラブはりま21、播磨町立図書館、播磨町中央公民館、播磨町民生委員・児童委員協議会、社会福祉協議会
子育て関係機関	北部子育て支援センター、南部子育て支援センター、学童保育所（高砂キッズ・スペース）、スクールソーシャルワーカー（播磨中学校・播磨南中学校）
福祉相談窓口	播磨町福祉会館 総合相談窓口
子育て支援団体	パパぱれっと、てるてるはりま、のぞえプレーパーク のこのこ、まちの居場所 はりまある、コミュニティカフェ parasol、ワーカーズコープセンター事業団、モグモグ播磨、ういっくす播磨

2 調査結果

(1) 播磨町のこども・若者、子育て家庭を取り巻く課題について

「ひきこもりや不登校について」が最も多く、次いで「家庭の環境について」となっています。



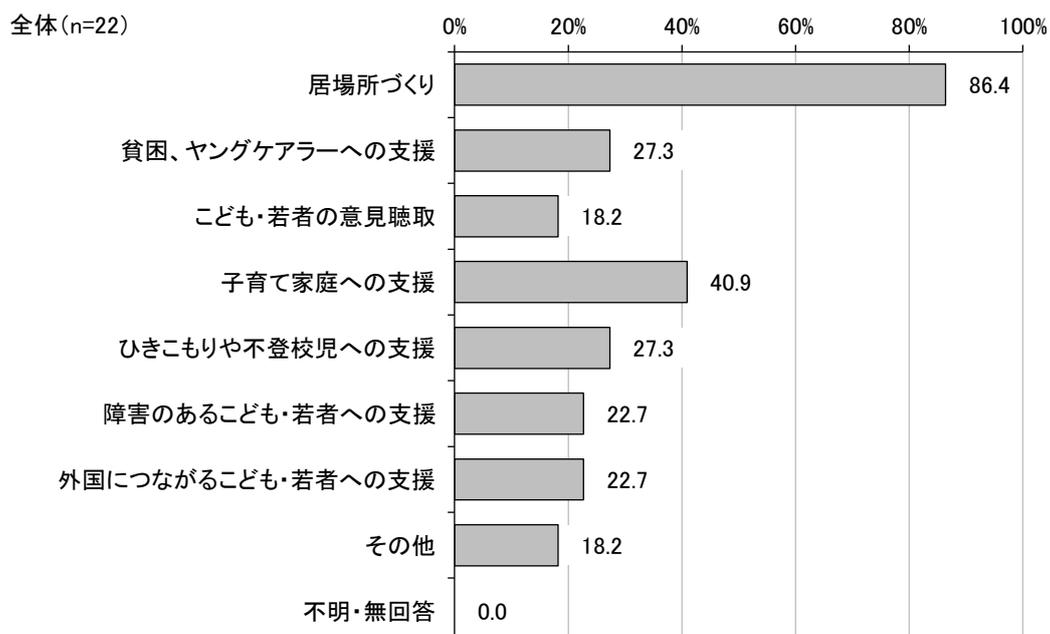
■主な意見

分類	主な意見 (抜粋)
家庭の環境について	<ul style="list-style-type: none"> 核家族化や女性の社会進出が進む中、「母親」が1人で子育てを抱え込む環境から脱却できていない。特に播磨町は子育て世代の転入者も多いうえ、昔ながらの風潮が根強く残っていて馴染みづらく、地域での支え合いの構図（自治会等）や行政と地域等との連携も上手くいっていない。 子育て中の方が気軽に子どもを預ける「仕組み」と「空気」をつくってけると良いと考える。
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長を見るときに、家庭の状況の把握が不可欠になっている。
	<ul style="list-style-type: none"> 様々な子育て支援施策とともに、保護者達が子育ての楽しさや喜びを感じられるような仕組みを考えていく必要があると思う。「子育て=母親」という時代は終わり、これからますます地域ぐるみの子育てが求められ、子育てを支える社会の構築が不可欠だと考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> 子どもは家族で過ごす時間より、ゲームやYouTubeで過ごす時間が多いようで、そのような環境の子はもっと自分を見てもらいたいという気持ちにさいなまれているように見え、学童保育でそのようなサインを出す子がいる現状がある。保護者にゆとりがない環境が心配である。
	<ul style="list-style-type: none"> 父親の育児参加。父親同士のコミュニティ。
ひきこもりや不登校について	<ul style="list-style-type: none"> 不登校について、学校でなくても学ぶ機会はつくれるはずであり、学校だけがすべてではないと思うので、認識を学校側も共有しておくべきだと思う。
居場所について	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの意思だけで通えるような居場所も必要である。本人すら気づいていない問題に気づける大人と居場所が町内にもできると良い。

分類	主な意見（抜粋）
貧困、ヤングケアラーについて	・貧困・ヤングケアラーに関連して、『困っている』という声をあげにくいとも考えられるため、より一歩踏み込んだアウトリーチが必要と感じるものの、人的資源や貸付対象以外の支援が必要な子育て世帯へのアウトリーチ方法に苦慮しているところである。
	・貧困、ヤングケアラーの問題は表面化しないため、判断するのは難しい。
	・本当に困っている人たちは、自ら発信したりできないように思う。インクルーシブに問題を共有、解決する場があったらいいと感じる。
	・不登校やヤングケアラーなど、地域のネットワーク、居場所、こども食堂など多岐にわたるシステムがほしい。
こども・若者の意見を聞く機会について	・若者と大人が話をする場がない。
	・子どもへの声掛けについて通報されることもあるため、声を掛けられないのが現状である。
	・公民館は中学生や高校生が勉強をしに来るため、居場所としての需要を感じる一方で、スタッフに干渉されたくないような空気があり、ユース世代の意見を直接聞けずにいる。
	・一人ひとりの子どもの声に丁寧に耳を傾けて、子どもの最善の利益について周りの大人が考えることが重要であると感じている。「どうせ話を聞いてもらえない」などと感じている子どもたちから、不安や承認欲求のサインが多くみられることが気になる。
その他	・総合的な相談窓口と重層的な支援体制が必要となっている。
	・様々な要因による複合的な問題に対して、保護者、学校、福祉それぞれの視点から見たとき、要因と考えられるポイントにずれが生じて、解消に向けてのアプローチの足並みがそろいづらい。

（２）現在、取り組んでいること

「居場所づくり」が最も多く、次いで「子育て家庭への支援」となっています。

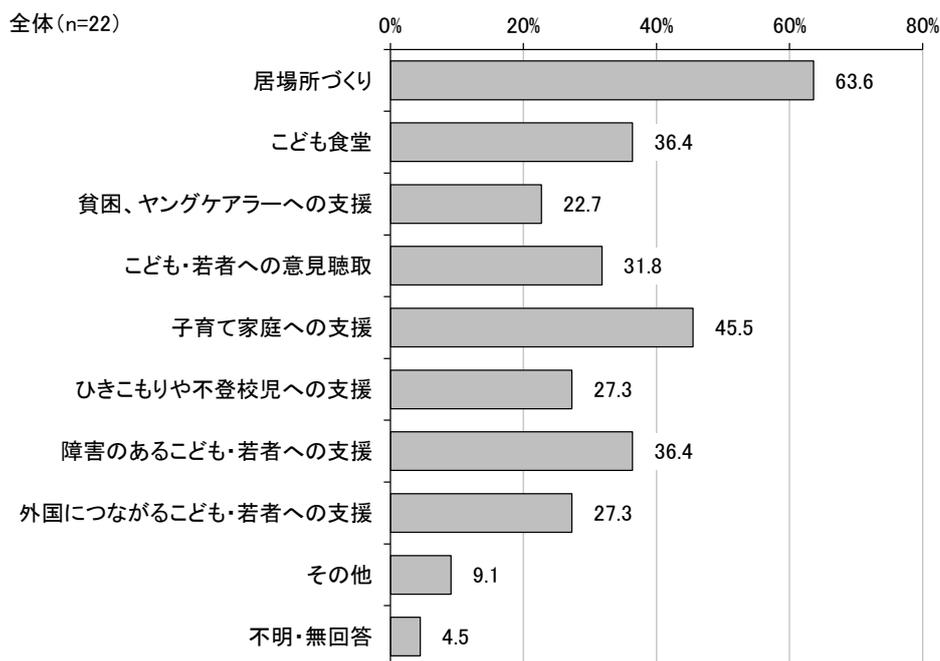


■主な意見

分類	主な意見（抜粋）
居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の公共施設での「託児付きイベント」の開催、子育て世代のリフレッシュや学びの場の提供など、居場所づくりをはじめ、買い物時等の託児サポート、空き家を活用した一時預かりなども実施している。 ・市内の運動施設でも託児を実施し、運動による発散や若者の健康増進。
	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンみんなの居場所（月2回）や学習教室（週1回）を開催している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンサテライトを通じて実施している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の放課後の居場所づくりとして「播磨町放課後子ども教室みんなでアソビバ!」、また家庭教育支援として「播磨町家庭教育支援プログラム実行委員会」で「みんなで学校ごっこ」「マチナカ・クエスト」等、地域を巻き込んだイベントを開催している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースペースの開設。オープンミーティング「おしゃべり場」に大人に混じって小学生も参加している。子育て世代や外国人などが利用しやすいよう工夫もしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の年齢が低いため、親子を対象とした居場所づくりとして、おやこさろんの開放をしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・こども・若者、子育て家庭に特化したものではないが、地域の居場所を運営している。また運営したいという方を支援することで年齢や性別、また障がいの有無に関わらない居場所づくりに間接的に取り組んでいるところである。
	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所を開設し、そこからいろいろな問題をすくいあげることができたらと思っている。そのうえで各種の問題に自分たちがどのようにアプローチできるかを住民と共に考え、行動していただきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生対象の講座、イベントの充実、放課後の受け入れなど。
	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉会館2階フリースペースを居場所として様々な団体に活用してもらっている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館でできることといえば居場所を提供することかと考える。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育は居場所として子どもが安心してここに通って「幸せだな」と感じられるように支援員は生活づくりを行っている。地域で子どもの放課後を見守るという点で、学童保育は役割を果たしていることもあると感じている。
貧困、ヤングケアラーへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・食糧支援や資金の貸付という手段を通じて、件数は限られるが、取り組んでいるところ。 ・総合相談窓口として、生活困窮やひきこもりの相談を継続的に実施している。 ・現在、福祉会館で母子家庭等（困窮者）にお米の支援をしている。困りごとがあれば、福祉会館ですぐに相談できるようにしている。
子育て家庭への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と支援員は一緒になって問題を解決に導く方法を探るスタンスを心がけており、保護者の子どもへの願いを支援員も共有しながら、子ども自身の願いや成長する姿を共に見守る支援者として保護者に寄り添うことを大切にしている。 ・父子で過ごす場づくり。母親の一人時間の確保。 ・家庭でもできる遊びの提供（あそび歌など）。 ・同世代の子の親のコミュニティづくり。 ・SSWとして、学校、家庭、行政と連携し、必要な支援を提供できるようにつないでいる。
ひきこもりや不登校児への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所づくりとして事業を実施しているわけではないが、不登校児や支援学級在籍の子が参加していることで、そういった子の居場所を提供している。 ・ひきこもりの生徒に対しては、お迎えを実施し、本人が安心して登校できる環境を整えている。
障害のあるこども・若者への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・民児協として、高齢者、障がい者、児童、母子全般の見守り支援に取り組んでいる。 ・障害のある子どもや外国につながる子どもの具体的な支援ではないが、受け入れはしている。 ・障害者基幹相談支援センターとして、障害のある子ども・若者・その家族への相談支援を継続的に実施している。
外国につながるこども・若者への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS等を使ってアンケートを実施し、直接的な声を聞きながら活動を改善したり、外国籍の子どもも分け隔てなく受け入れる体制にしている（実際の利用者はほとんどいない）。 ・外国につながるこどもに対しては、就学支援の案内を行った。

(3) 今後、取り組みたいこと

「居場所づくり」が最も多く、次いで「子育て家庭への支援」となっています。



■主な意見

主な意見 (抜粋)
・外国籍の子どもや障害を抱える子どももきちんと預かれるような体制づくり（託児スタッフの教育や資格取得の促進、専門的知識を有する人材の確保）や「居場所」または「学習支援」の場づくりにも取り組みたい。そのことにより、学校へ行きづらい子どもたちのサポートができる場としても機能すればよいと考えている。
・こども食堂について関心のある方々をつなごうとしている。
・図書館をまずは利用してもらう。図書館では障害のある人の就労実習の受け入れを引き続き行う。 ・直接的な支援は難しくても、必要な資料、図書を用意することはできるため、外国語で書かれた絵本や図書が必要であれば準備してきたい。
・小学生対象の企画として「夏休みこども教室」「こどもいきいき体験隊」等の企画を進めている。喫茶コーナーを活かしたこども向けの食事提供などを検討したい。
・子ども・若者との関わりを高めることで、その家族を含めた『地域みんなのしあわせ』が向上するよう、まずは意見聴取から取り組みたい。
・現在行っている、おやさろんの開放、子育て支援講座などの開催などを実施し、親子の居場所づくり、子ども同士、親同士のつながりをつくる支援、相談事業などを充実させたい。
・こども・若者への意見聴取について、事業の中で意見を吸い上げ、反映できるように取り組んでいきたい。
・学童保育において「それは無理だ」と大人が感じることでも、子どもの意見として丁寧に扱い、議論できる場が学童保育の生活でも実現できたらいいと感じた。
・Discord（通話アプリ）でコミュニティを今後やりたい。
・のこのこにおいて親と一緒にいけない子どもでも遊びに行ける選択肢としてありたい。 ・のこのこでは畑で野菜を作る活動も開催し、地域の方との交流の中で豊かな人間性や社会性を学ぶことはできる活動だと思う。
・播磨町は、居場所、こども食堂等は他の町村に比べ、とても多く、住民の方々が頑張っている。
・子どもが気軽に訪れて自分の話ができる場所づくりが必要だと考える。

(4) 今後、取り組みたいことについて、取り組めていない理由と、行政等に求める支援

■主な意見【取り組めていない理由】

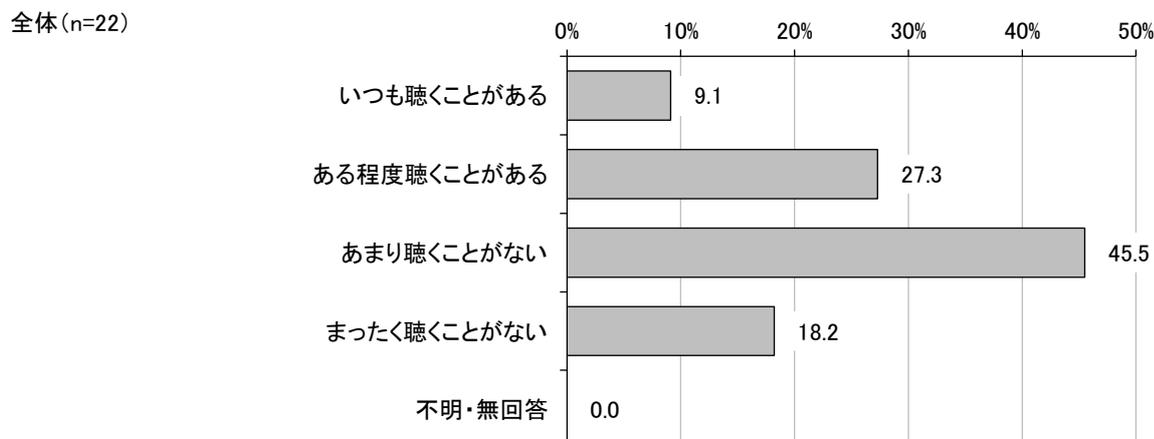
主な意見（抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・若者をターゲットにした福祉的な事業では、収入源が乏しいため人件費の捻出が困難。スタッフの教育や育成（研修）、資格取得等のサポートも難しい。 ・子どもや若者の居場所をつくるための「場所」の確保が困難。 ・外国の子どもや障害を持つ子どもについては、当事者の遠慮などもあり普及しないし、あまり多くの需要があっても応じきれない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ノウハウ、人的資源、財源の課題等があり積極的に取り組めなかった経緯がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・こども食堂については、やる気、校区ごとの開設が必要、場所、器財は確保、食材は何とかなるが、長期活動できる人材確保。1期で委員をやめていく人が多すぎる。
<ul style="list-style-type: none"> ・こども食堂に関しては、播磨町での必要性や、必要な子どもたちへの支援になり得るかどうか等、疑問が残り、未だに取り組めていないのが現状である。
<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる相談において、時に当事者への継続的なアウトリーチを必要とする相談支援の展開。 ・医療的ケアの必要な子どもや若者の相談対応と支援の展開。 ・精神障害者を家族に持つ子どもの相談対応と支援の展開。 ・主として、マンパワーの問題が理由。医療機関及び教育機関との連携。
<ul style="list-style-type: none"> ・当初の目的としての、ひきこもり等（若い世代）に対して認知ができておらず、これからも取り組みが必要だと思っている。
<ul style="list-style-type: none"> ・課題が多すぎて、すべてにおいて落ち着いていない。人の補充は、播磨町は迅速にしていると思うが、（官民の）ネットワークが機能されていない面もある。
<ul style="list-style-type: none"> ・場所と時間と人の確保が困難であるため。ある程度の報酬の確保も必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・他方面の講師とコラボして、いろいろな体験をしていくことを進めたいが、十分な講師料がなく、依頼が難しい。

■主な意見【必要な支援】

主な意見（抜粋）
<ul style="list-style-type: none"> ・人件費や運営に必要な経費を拠出してほしい。 ・町内の既存施設や空き家等、管理運営を任せてもらえる「場所」と必要経費（水光熱費等）の負担をお願いしたい。 ・町内で活動している団体について広く知ってもらえるような取り組みをしてほしい。また、外国の子どもについては、日本語教室にも託児を付ける等の「外国籍の親の支援」を視野に検討して頂きたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・実際に活動するのは地域住民でできるため、行政にはミーティングへの参加や、チームを作る、広報など協力してもらえたら、こども食堂の開催は可能だと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・全国のこども食堂の実態について知りたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・特に中・高・大学生にはどんどん来てもらいたいので、フリースペースがいつでも利用できることを多方面からPRしたいので、支援をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉アドバイザーの配置等により、一人体制であった地域支援への人的資源が充実してきているところである。今後も引き続き、人的資源確保のための財政面での継続的な支援をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・現在町内すべての学童保育は定員数を超える児童が入所している。子どもが健やかに安心して生活するためには新たな専用施設が必要であると考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの居場所となる場所の経費等の支援を行っていただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・現在、福祉会館の施設を無償で使わせて頂いていることが最大の支援と感じている。そういった活動をしていることを行政職員に知ってもらい、この居場所とマッチしそうな町民と出会ったときに、こんな場所があると伝えていただけたらと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な方とつなげてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> ・民間の力をもっと導入して、託していくようにしてほしい。 ・保育園の送迎サポート、こども食堂運営サポート、夜間の不登校生徒の居場所。
<ul style="list-style-type: none"> ・予算として、活動費（講師料）を増やしてほしい。

(5) 活動を通じて、子ども・若者から、生の声を聴く機会の頻度

「あまり聴くことがない」が最も多く、次いで「ある程度聴くことがある」となっています。



(6) 子ども・若者から聴く意見の主な内容

■主な意見

主な意見 (抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者自身の疾病や通院時など、急な事態にも預かり対応してほしい。 ・ 親子イベントにも託児をつけてもらえるため、小さな弟妹がいても上の兄姉との時間を持てるのが良い。 ・ 播磨保育園の一時預かりは予約が取れない。 ・ ファミリーサポート事業は事前申請、面談などのハードルが多く、利用しづらい。 ・ イベント参加費をなるべく安くしてほしい。 ・ 託児スタッフに「ボランティア」を強いるのは良くない。
<ul style="list-style-type: none"> ・ フリーWi-Fi は助かる。静かで集中できる場所が欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達の学校生活、生徒同士の喧嘩、いじめ、先生の対応、親との関わりについて、大人より複雑な悩みを持っている。気付いた時点で解決することが大切。
<ul style="list-style-type: none"> ・ センター利用の小学生から、小学生の利用時間、利用可能日を増やしてほしいという声がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが自由に入出りできるような児童館のような遊び場、居場所がほしい。 ・ 一つのコミセンだけでそのような役割があると聞いたことがあるが、制限が多く一般的な児童館のような形にはできていないとも聞いた。ボール遊びを禁止にしている公園が多いので遊びづらい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校、中学校に対しての意見。ボランティア活動の中での悩み事、トラブル。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しい、もっと行きたい。

(7) 播磨町が取り組むべきと考える支援・制度・連携等

■主な意見

主な意見（抜粋）
・行政だけでがんばらないで、民間の力を上手に活用して欲しい。町内で活動する民間団体の様子を視察に行くことも必要ではないか。
・働く人の支援も大切だが、家庭にいて、我が子の成長のために力を注いでいる主婦層への支援としては、時々でも短時間でも子どもを預けられる環境は重要。 ・働きたい人と言っても多様で、短時間（4～5時間、週2～3日）預けられれば良いという人も多く、働きたいのに預けられない人は多い。
・家庭的保育事業のような小規模の認可保育園を早く稼働できる体制にしてほしい。
・高齢者の「足」だけでなく、子育て世代の「足」についても考えてほしい。
・体験無料チケットを出すなど、必要な人がサービスを使いやすくすることにお金を使ってほしい。
・町内のサービス運営には、なるべく町内の人材（活動団体）を登用してほしい。
・播磨町は多子世帯が多い印象のため、多子世帯支援にも力を入れてほしい。 ・若者の意見を直接「行政（町長）」が聴取する機会を。
・子どものために活動している諸団体・個人がつながり協力し合えるような場を設けてほしい。 ・コミセン（コミュニティ委員会）に補助金があれば活用したい。
・1つの拠点だけでは実現性や発展性に乏しいため、学校・地域・団体（ボランティア含む）等との連携をしていきたい。
・子どもの成長が家庭の環境に左右される現状を目にすることがよくある。子どもを守り育てるためにも、親を育てる取り組みができればと思う。
・子どもたちが、安心、安全に遊ぶことができる場の確保（公園の整備や居場所事業づくりなど）。 ・見守りカメラの設置。
・子どもたちが自由に遊べる環境づくり。
・児童発達支援センターの設置と教育・福祉・医療の連携。若者の社会参加と就労支援の充実。
・子どもたちの居場所が、子どもだけではなく、子どもたちを育む大人たちの居場所でもあり、子どもの年齢を問わず、気軽に相談できる場であってほしい。
・子どもたちがネット上でつながる場に播磨町の大人も参加しないといけないと感じる。
・まちづくりパートナー事業を受けている団体の代表が、4年目以降はどうやって活動していけばいいのか、継続が課題。
・せっかくの活動も町民に伝わらなければ意味がないのでその繋ぎ役をして頂けたらありがたい。その活動がどんなシーンで活躍できるかを考えた上で、それが伝わりやすいような案内をして頂く。 ・活動を持続していくために施設の無償提供や関係部署との連携などの支援が簡易な仕組みでできると良いと思う。
・播磨町で活動されている各団体同士でのやり取りする場や勉強会などがあつたらいいと思う。
・子どもたちの異変に気づいた時には、そのことを早く学校、地域等が見つけ役場等に連絡し、押しつけの支援の介入ではなく自然な流れで支援に入れる仕組みがあればいいと思う。
・民間に委託して、補助金でサポートする形で、不登校支援や、ヤングケアラー等含めた家庭支援のためのこども食堂の運営など。
・こども施策の充実のために、今回のようなヒアリング調査や、直接集う会もあれば、意見交流や新たなアイデアが生まれると思う。

播磨町こども・若者に関する
アンケート調査・関係団体ヒアリング調査
結果報告書【概要版】

発行：播磨町 福祉保険部 こども課
TEL：079-435-0366
FAX：079-435-0831

発行年月：令和6年8月